

目次

レポートコマンドの挿入.....	1
レポートコマンドの挿入: はじめに	1
分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入.....	2
分析エリア	3
矢印を全て表示	4
ウィンドウ閲覧	4
2D プロットコマンドの挿入.....	17
2D プロットについて	17
プロットをスキャンする	17
測定寸法情報ボックス挿入.....	26
測定寸法情報作成ルール.....	27
表示オプション	28
グラフ オプション	29
画像オプション	30
寸法情報のフォーマット.....	32
位置の軸線	34
位置の軸.....	36
情報削除.....	37
DIMINFO コマンド	37
[点データ]ボックスの挿入	39

情報削除.....	43
POINTINFO コマンド	43
画像オプション	44
プログラマーのコメント挿入	47
レポート	50
レポート	52
ドキュメント	53
入力	54
はい/いいえ	56
測定値	59
レポートの表示	60
自動継続の実行	60
OVC	61
全画面表示	63
メディアのインポート	65
メディアの削除	68
コメント テキスト	69
ASCII文字の挿入.....	69
測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。	69
REPORT コマンド	70
PARAMコマンドを使用して、PC-DMISの式をオブジェクトプロパティへマッピングすること	74

レポートコマンドの挿入

外部オブジェクトの挿入	75
印刷コマンドの挿入	75
PRINT/REPORT コマンド用シンタックスの理解	76
PRINT/REPORT コマンドの編集	83
書式供給コマンドの挿入	84
ビューセットの利用	85
FORM コマンドの挿入	89
スクリーン キャプチャの挿入	92
スナップショットの挿入	93

レポートコマンドの挿入

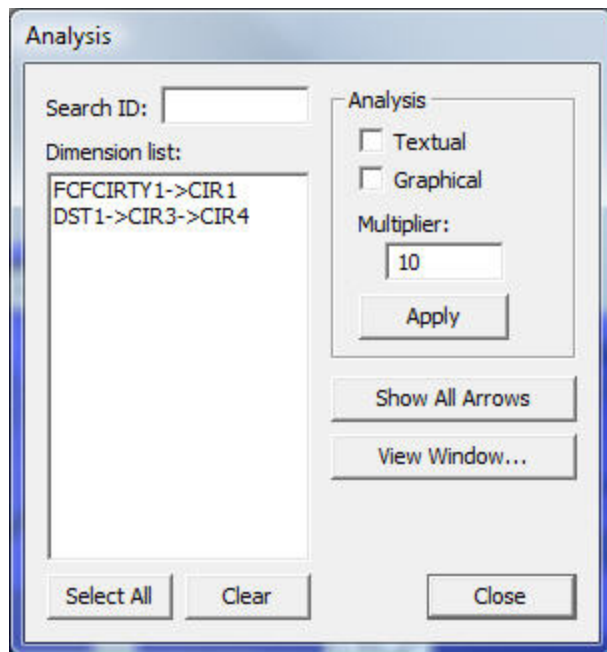
レポートコマンドの挿入: はじめに

PC-DMISでは、編集ウィンドウに様々なコマンドの種類を挿入でき、それはレポートの何の情報がどのように表示することを影響できます。挿入 | レポート コマンド | 分析サブ・メニューから選択されたメニューオプションを挿入されたこれらのコマンドでは、プログラマに設定、表示、印刷、およびできる限りの編集ウィンドウの外観をカスタマイズできます。

次のトピックは、本章で説明されています。

- 分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入
- 測定寸法情報ボックス挿入
- [点データ]ボックスの挿入
- プログラマーのコメントの挿入
- 測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。
- 外部オブジェクトの挿入
- 印刷コマンドの挿入
- 形状供給コマンドの挿入
- ビューセットの利用
- FORMコマンドの挿入
- 画面キャプチャの挿入
- スナップショットの挿入

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入

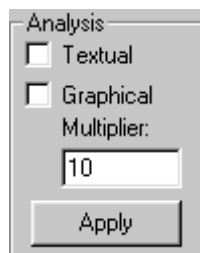


[分析] ダイアログボックス

挿入 | コマンドのレポート | 分析 メニューオプションは[分析]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスには、精密検査のために適切なフォーマットで分析ウィンドウに寸法のプリントを送信します。「分析」ウィンドウから、[ANALYSISVIEW](#)コマンドを「編集」ウィンドウに挿入して、分析をレポートに組み込むことができます。分析ウィンドウの詳細については、「ウィンドウの表示」トピックを参照してください。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に寸法一覧ボックスにその要素を使って寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。

分析エリア



このダイアログ ボックスの[分析] エリアを使用して[測定結果の一覧]ボックスから選択した測定結果をグラフィカルまたはテキスト読み取り形式のいずれかで表示することができます。

デフォルトで[分析]エリアのチェックボックスは選択されていません。[テキスト]または[グラフィカル]チェックボックスを選択して[適用]をクリックするとPC-DMISは選択した測定結果をテキスト形式またはグラフィカルイメージのいずれかで表示します。CADデータは、全く表示されません。

フィーチャーに問題があり、その原因を決める必要がある場合、グラフィックス分析オプション、または、テキスト分析オプションのいずれかを持っていると役に立ちます。



平面の平面度を検査し、許容範囲外であったと仮定します。グラフィックス分析オプションを使用すると、平面を検査して特定エリアが悪いかどうか、または平面全体が異常であるかどうかを判定することができます。

グラフィカル - グラフィカルチェックボックスをオンにすると、PC-DMIS はグラフィカルに表示できる形式で寸法情報を保存します。

テキスト - テキストチェック ボックスを選択すると、PC-DMIS はテキストとして表示できる形式で寸法情報を保存します。

乗数 - 乗数ボックス内の値は、グラフィックス分析モードにおいて、矢印及び誤差域を拡大する、測定係数です。例えば、値 2.0 を入力すると、PC-DMIS は矢印をグラフィカル画像の 2 倍に拡大します。このオプションは表示目的にのみ使用することができます。このオプションはテキストの印字出力には反映されません。

矢印を全て表示

Show All Arrows

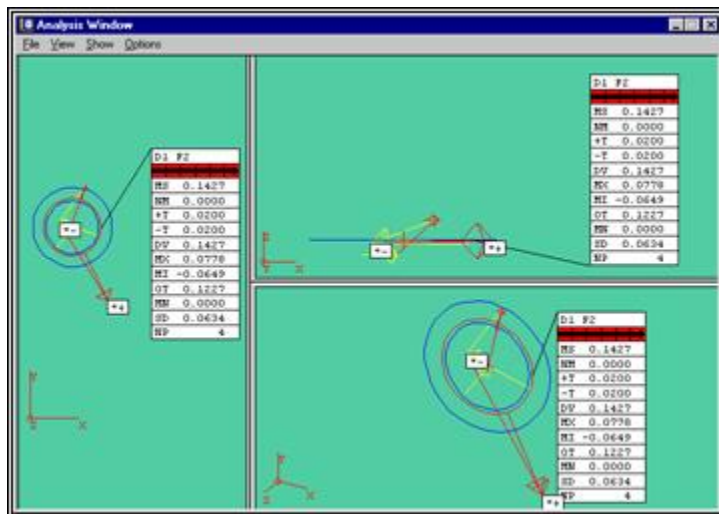
すべての矢印を表示 ボタンが、マース偏差に使用されるグラフィカルな分析矢印を表示します。これらのグラフィックス分析矢印は、矢印ごとに隠すことが可能です。これを行うには、CTRL + シフト キーを押し、隠す矢印上をクリックして下さい。**すべての矢印を表示** ボタンをクリックしてこの矢印を表示します。その後、グラフィックス分析矢印は表示目的用に再設定されます。

ウィンドウ閲覧

View Window

分析ダイアログボックスで、**表示ウィンドウ** ボタンは、分析ウィンドウが表示されます。

分析ウィンドウのメニューバーを用いると、グラフィックス画像を変更し、その時点でのグラフィックススクリーンをキャプチャーし、または、選択された測定寸法の色付けを編集することができます。



分析ウィンドウ

このウィンドウにアクセスするには：

1. 挿入 | レポートコマンド | 分析 メニューオプションを選択して、[分析]ダイアログボックスを表示します。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入

2. 分析ダイアログボックスから：

- 分析 ウィンドウに検査される寸法を選択します。
- 乗数ボックスで、値を入力して、矢印と公差ゾーンを拡大します。

3. ウィンドウの表示ボタンをクリックして、解析ウィンドウを開きます。

分析ウィンドウ上のメニュー バーには、以下のメニューがあります：

- ファイル
- ビュー
- 表示
- オプション

分析ウィンドウでのグラフィックス分析の初期画像を決めるために、PC-DMISは、スキャン画像の輪郭寸法用のスキャン切断面ベクトルか、または、他の寸法用のその時点での作業平面か、のいずれかを使用します。この画像は、後に変更が可能です。

ファイル メニュー

分析ウィンドウの**ファイル** メニューはグラフィックス分析ウィンドウの内容を印刷用のプリンタに直接に発送します。

ビューメニュー

分析ウィンドウ**ビュー** メニューは選択された寸法のグラフィックス表示を一時的に変更できます。画像を回転、サイズ調整、または、変更することによって、必要な測定寸法に容易にアクセスできます。



点のセットのプロファイルエラーを表示しているときに、このオプションは特に有用です。

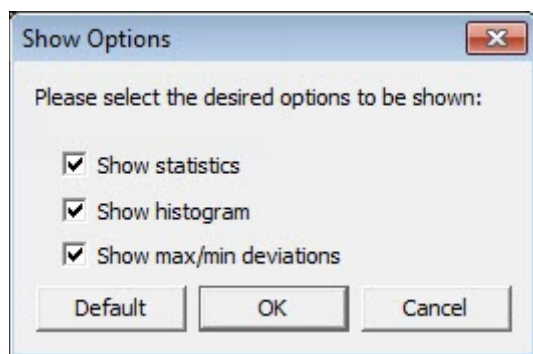
[表示 | 変更] メニューオプションを使用してCAD ファイルから新しいビューを作成できます。この機能は2D IGES ファイルが1つの平面にパートの複数のビューを含み、グラフィックの表示ウィンドウに正しい向きでビューを関連付ける必要がある場合に便利です。ビューの操作に関する、より詳しい情報については、「CAD表示の編集」の章にある「スクリーンビューのセットアップ」を参照して下さい。

ビュー| フィットに規模拡張 メニューオプションはグラフィック表示ウィンドウ内に完全に収まるように一部の画像を描画します。画像が大きくなりすぎ、または、小さくなりすぎた時に、この機能は役に立ちます。

ビュー| 回転 メニュー オプションを選ぶと、**回転** ダイアログ ボックスが表示され、それを用いると3次元のパーツ画像を回転することができます。

CAD表示の編集」章の「図面を回転」トピックはもっと詳細的に回転について説明します。

表示メニュー



[オプションの表示] ダイアログボックス

分析ウィンドウの表示|オプション表示メニューのコマンドは**オプション**表示ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスでは、分析ウィンドウに表示する内容を選択できます。

分析ウィンドウの表示 | 寸法統計を表示 を選択すると、**寸法情報を編集** ダイアログボックスが現れます。このダイアログボックスを用いると、ハイライト表示された測定寸法を詳細に渡って編集することができます。詳細については「旧式寸法の使用」章の「測定寸法ダイアログ ボックスの共通オプション」、及びこの章の「寸法情報ボックスの挿入」を参照して下さい。

統計の表示 - 分析ウィンドウ内のさまざまな統計情報を表示します。**統計表示**チェックボックスが選択されない場合、(いずれの測定寸法についても) 測定寸法の情報テキストは表示されません。分析ウィンドウに表示される、統計フォーマットを変更するには、**測定寸法情報編集**を参照して下さい。

ヒストグラムの表示 - 各ポイントの偏差のヒストグラムを表示します。ヒストグラムを解析ウィンドウ内の新しい場所に移動することができます。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入

分析ウィンドウ内の新しい位置に移動するには:

1. ご希望の柱状グラフをクリックして下さい。
2. ご希望の位置に、カーソルをドラッグして下さい。
3. マウスボタンをリリースして下さい。

最大 / 最小偏差を表示 - 正負記号で示された最大と最小の偏差を表示します。

オプション メニュー

分析ウィンドウのオプションメニューを用いると、その時点でのグラフィックス画像を今後の使用のためにキャプチャすることができます。これを用いるとまた、**色の編集** ダイアログ ボックスにもアクセスでき、分析ウィンドウのサイズ変更を行うこともできます。

分析ビューコマンドの作成/保存

分析ウィンドウの「オプション|分析ビューコマンドを作成」メニューオプションは、分析ウィンドウに使用される寸法、ビューおよび回転を使用し、編集ウィンドウで [ANALYSISVIEW](#) コマンドにその情報を挿入します。PC- DMISが[ANALYSISVIEW](#) コマンドを実行すると、次のようになります:

- PC- DMISは、一時的に分析ウィンドウを開き、その内容の画面をキャプチャします。
- PC- DMISは、[レポート]ウィンドウで、この画面のキャプチャを表示します。それは、自動的にレポートウィンドウに合わせて画面キャプチャのサイズを変更します。これは、レポートウィンドウのTextReportObjectに挿入されます。TextReportオブジェクトの詳細については、「測定結果のレポート：概要」の章「TextReportObject」トピックを参照してください。それはAnalysisWindowオブジェクトには影響しません。

このオプション用の編集ウィンドウ のコマンドラインは、以下のようです:

[ANALYSISVIEW/D1,D2,D3,,](#)

D1,D2,D3 = 表示される寸法の一覧。

使用可能なディメンション パラメータの数に、限度はありません。

編集ウィンドウに「[ANALYSISVIEW](#)」と入力しても、[ANALYSISVIEW](#)コマンドが作成されます。分析用に選択された測定寸法はいずれも、このコマンド用のパラメータになります。

レポート用にグラフィックス画像保存

別の画面がキャプチャされるまで、あるいは測定ルーチンが閉じるまでクリップボードの画像は残ります。

分析ウィンドウのオプション | レポート用にグラフィックス画像保存 メニュー オプションを選ぶと、分析ウィンドウにある画像が獲得され、[DISPLAY/METAFILE](#) コマンド内に保存されます。実行時には、これが今度は、キャプチャー画像をインスペクションレポート内に送付します。

PC-DMISには、キャプチャーされた画像を編集、または、フォーマットする能力はありません。グラフィックス画像は、カーソルの所在位置で表示されます。

この[DISPLAY/METAFILE](#) コマンドは[DISPLAY/METAFILE](#) コマンドと異なり、以下の方法で、メインメニューから生成されます：

- これは、そのメニュー項目が選択されると、グラフィックス表示ウィンドウ内ではなく、分析ウィンドウ内の画像のスクリーン キャプチャーを行います。
- 実行中に画面のキャプチャが奪還されない、それは静的なイメージです。

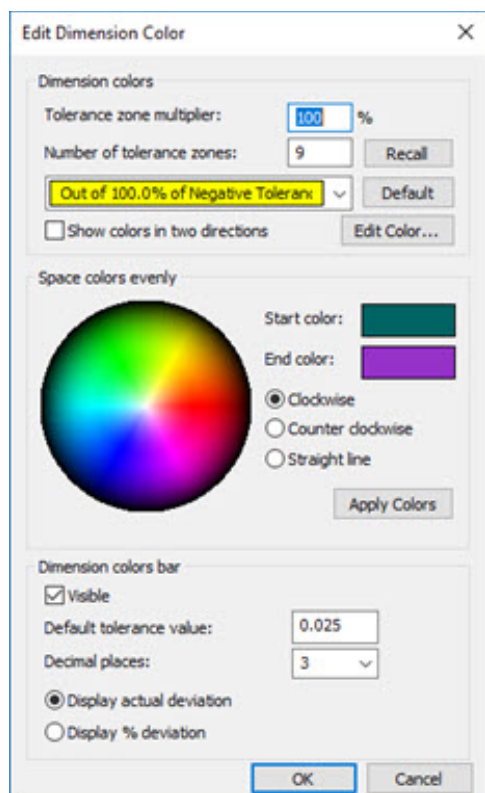
実行中に、自動的に更新するスクリーン キャプチャーの作成については、「分析画像コマンドの作成」を参照して下さい。

[DISPLAY/METAFILE](#)コマンドに関する、より詳しい説明については、「編集ウィンドウの使用」の項にある「[画面キャプチャ](#)」を参照して下さい。

寸法色の編集

分析ウィンドウのオプション | 測定寸法色の編集 メニュー オプションを選ぶと、特定された公差範囲用に色付けを設定することができます。このオプションを選択して、[寸法色の編集]ダイアログボックスを表示します。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入

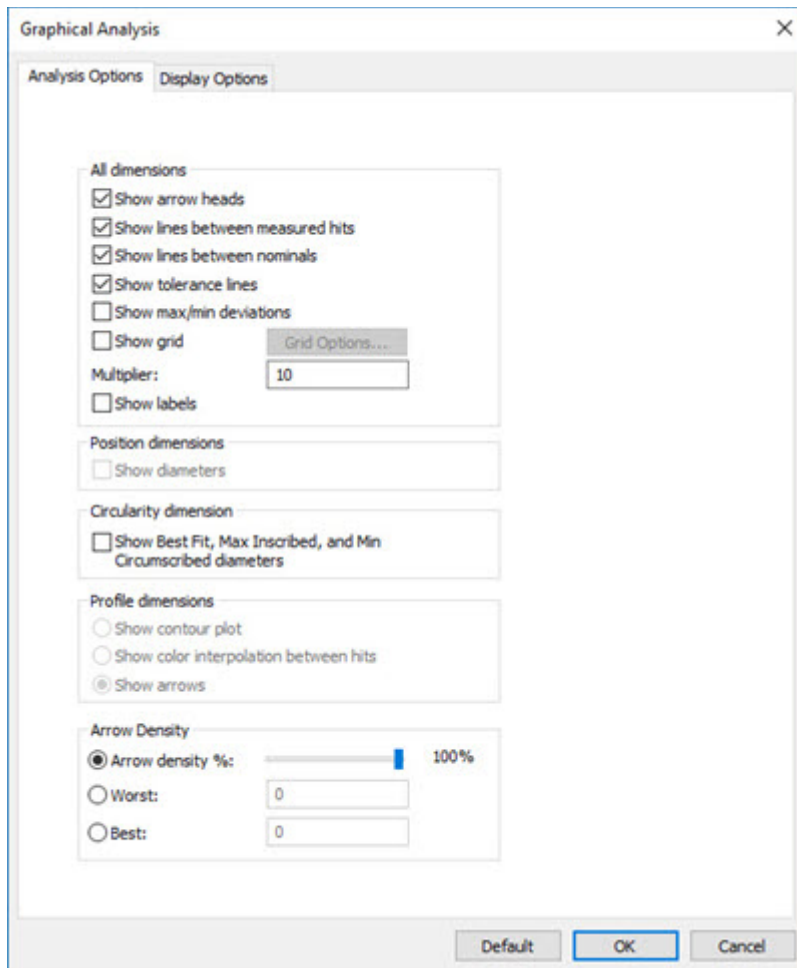


[寸法色の編集] ダイアログボックス

このダイアログボックスを使用して公差の寸法色を変更する方法については、「CAD 表示オプションの編集」の章の「寸法色の編集」トピックを参照してください。

分析のオプション

このグラフィックス 分析オプションダイアログ ボックスを用いると、分析ウィンドウ内で表示される情報を決めることができます。

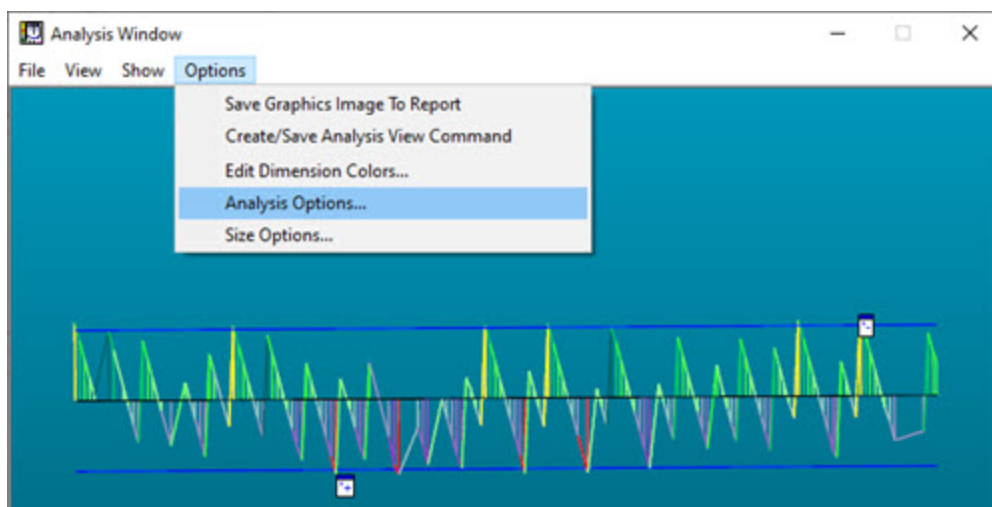


[グラフィック分析] ダイアログボックス

このダイアログボックスにアクセスするには：

1. メニューから**挿入 | レポートコマンド | 分析**を選択して、**[分析]**ダイアログボックスを表示します。
2. **[分析]**ダイアログボックスの**[寸法一覧]**ボックスから、寸法を選択します。
3. **ウィンドウの表示ボタン**をクリックして、解析ウィンドウを表示します。
4. 分析ウィンドウのメニューから **[グラフィカル分析]** ダイアログボックスを開くには、**[オプション | 分析オプション]** を選択します。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入



[分析オプションメニュー] オプション



以下のとき、メイン PC-DMIS メニューからすばやく分析設定にアクセスできます (編集 | グラフィック表示 | 分析オプション)。

- GRAPH=OFF から GRAPH=ON までの寸法オプションを変更する (または幾何交差では CADGRAPH=OFF から CADGRAPH=ON まで)、そして...
- グラフィック表示ウィンドウに表示される分析設定を変更したい

これ以前には PC-DMIS ではユーザーがこれらのオプションに達するのに [分析](#) コマンドを作成する必要がありました。

[グラフィカル分析] ダイアログボックスには以下の 2 つのタブがあります。

- [分析オプション] - このタブの項目の説明については、後述の「分析オプションタブ」を参照してください。
- [表示オプション] - このタブの項目の説明については、[レポートオプション] タブが記述された「測定実績のレポート」章の「AnalysisWindowオブジェクト」トピックを参照してください。



分析ビューから **[グラフィカル分析]** ダイアログボックスを開くと、**[分析オプション]** および **[表示オプション]** としてタブ名が表示されることに注意してください。レポート内部からダイアログボックスを開くと、**[分析オプション]** および **[レポートオプション]** としてタブ名が表示されます。

分析のオプションタブ

[グラフィカル分析] ダイアログボックスの **[分析オプション]** タブには以下のエリアがあります。

すべての寸法エリア

矢印を表示する - これは偏差線に矢印を表示します。

[測定された取込点間の線を表示] - これは測定された取込点間の線を表示します。

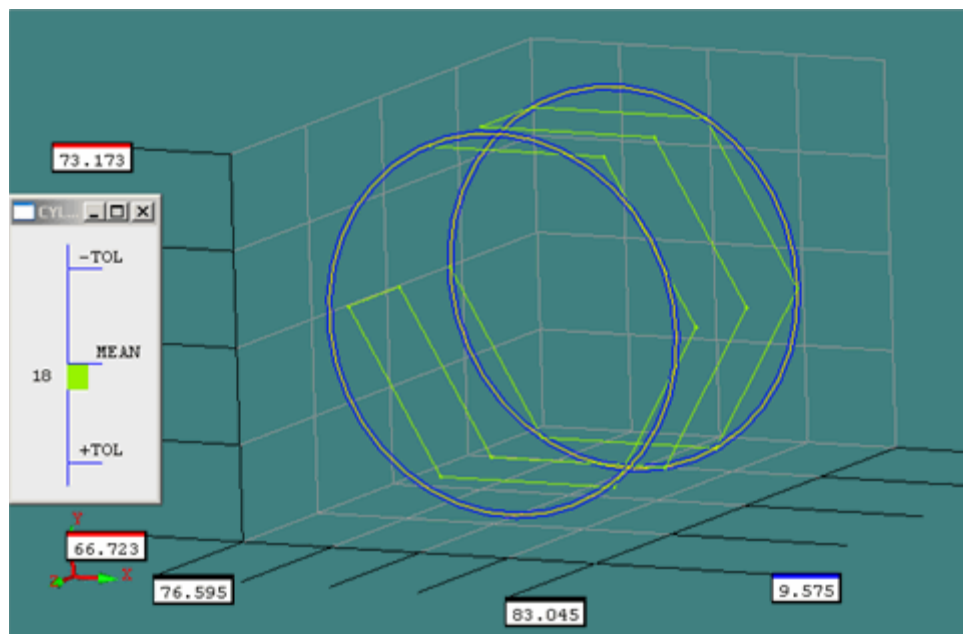
[公称値間の線を表示] - これは PC-DMIS が公称値間に引く線を描画します。

公差線を表示 このチェックボックスは、合格の寸法公差の表示を切り替えます。

最大 / 最小偏差を表示 このチェックボックスは最大値と最小偏差が '+' または '-' 記号で示されるようにします。

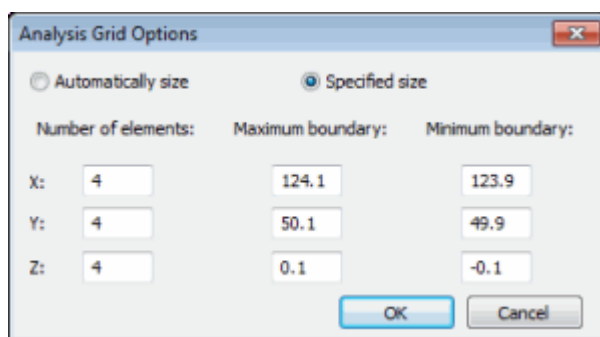
グリッドを表示 - これは、グラフィカルな分析の3Dグリッド状の背景を表示します。グリッドを有効にするのは回転した項目の表示に助けます。それも **グリッドオプション** ボタンを有効にします。

分析ウィンドウに関連したコマンドの挿入



グリッドオプションを有効にしたグラフィック分析ウィンドウの例。

グリッドのオプション - これは分析グリッドオプションダイアログ ボックスを表示します。このダイアログボックスを使用してグリッドを定義することができます。



[分析グリッドオプション] ダイアログボックス

このダイアログ ボックスには、以下のオプションがあります：

自動的にサイズ調整 - これは、X、Y および Z フィールドで指定されるオブジェクトの数に基づき、格子を自動的にサイズ調整します。

指定されたサイズ - これは [最大 境界] および [最小 境界] ボックスを有効にして、最大値と最小値の境界の特定サイズを入力できるようにします。

図形要素数 - これは、PC-DMIS が分析格子に描写する図形要素部分の数を定義します。

最大境界 - これは分析格子座標の上限を定義します。

最小境界 - これは分析格子座標の下限を定義します。

グリッドオプション - これによってグラフィカル分析モードの偏差の矢印および公差領域を拡大する倍率を入力できます。値 2.0 を入力すると、PC-DMIS は各要素ヒットに対して計算された偏差の矢印を 2 倍に拡大します。



このオプションは閲覧目的のみに使用され、テキストのみのプリントアウトには反映されません。

位置寸法エリア

直径を表示 - これは利用可能な位置の測定結果の直径を表示します。

真円度寸法エリア

最適化の直径を表示、最大内接直径、最小外接直径 - これらのチェックボックスは、円形寸法の直径を表示します。これらの直径は円形要素の平均、最大と最小の偏差を表示します。

輪郭寸法エリア

等高線プロットの表示 - このオプションはパッチスキャンのみに適応される輪郭寸法に利用可能になります。等高線プロットはパッチスキャンポイントを使用してメッシュを作成します。それは次に色が各ヒットからの輪郭偏差に関連付ける色でメッシュを覆います。

PC-DMISはグラフィックス表示ウィンドウ内のCAD モデルの等高線プロットを表示できます。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「表面プロファイル等高線グラフの表示」を参照してください。

ヒット間の色補間を表示 - これがヒット間に色を挿入します。このオプションは、輪郭寸法に利用できます。

矢印を表示 - これは、各点の偏差の矢印を表示します。このオプションは、輪郭寸法に利用できます。

矢印密度エリア

Arrow Density

☒ Arrow density %: 100%

☐ Worst:

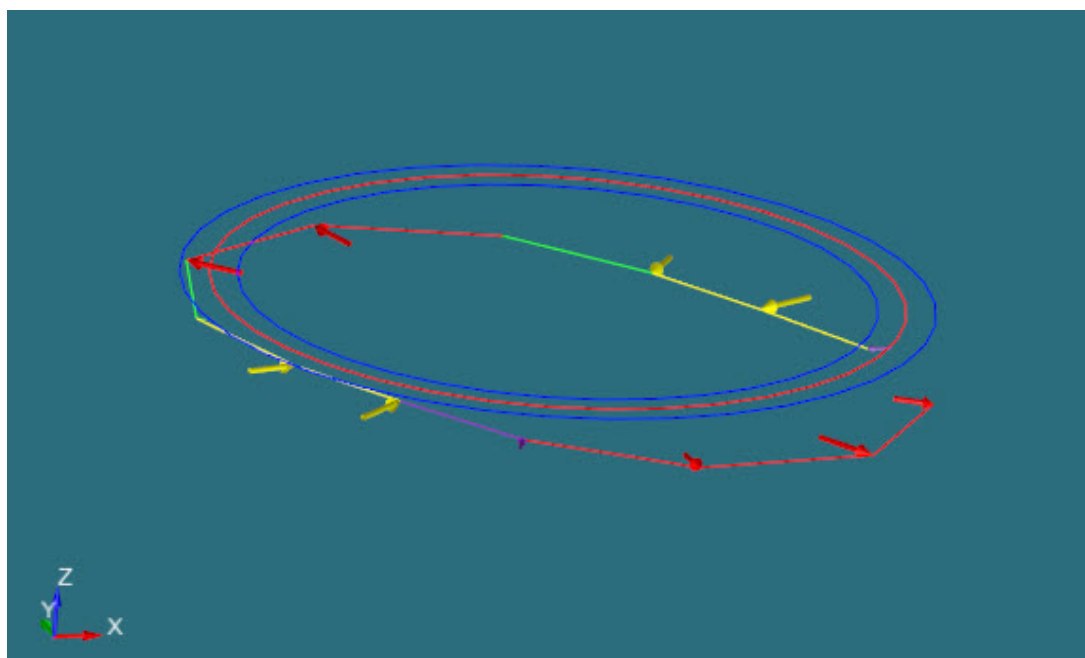
☐ Best:

矢印の密度 - このスライダは全体のグラフィカルな解析を使用している測定ルーチンの任意の寸法に表示された点の矢印の密度を変更できます。

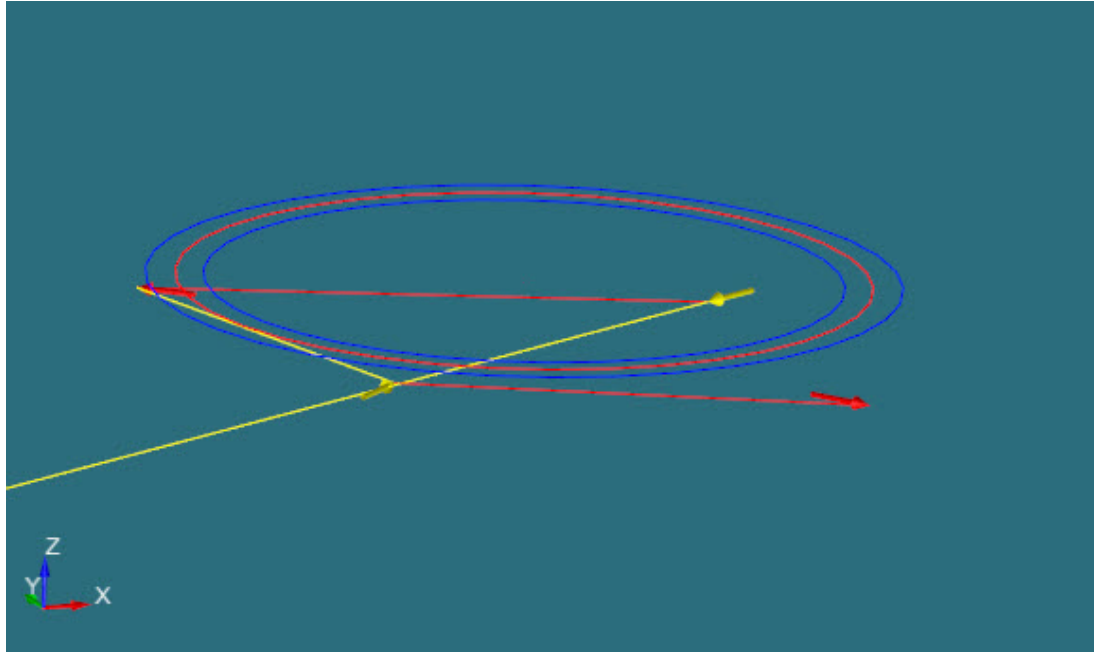
これは [幾何公差] ダイアログボックスの [レポート] タブにおける [矢印密度] 機能とは異なります。[レポート] タブにおける設定は、その特定の測定結果にのみ影響を及ぼします。「幾何公差の使用」章の[レポート] タブを参照してください。

最悪 - このボックスは矢印を表示する最悪の偏差の数を定義します。以下の例では左にすべての矢印を表示し、三つの最悪の矢印を右に表示します。

最良 - このボックスは矢印を表示する最良偏差の数を定義します。

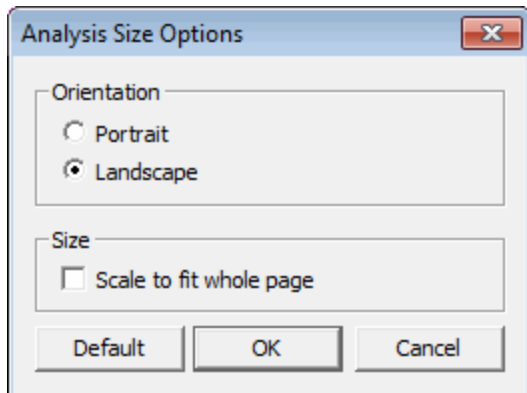


すべての偏差を示す例 (100% 矢印密度)。



三つの最悪の偏差を示す例。

サイズ オプション



[分析サイズオプション] ダイアログ ボックス

[分析サイズオプション] ダイアログ ボックスを用いると、PC-DMIS が分析ウィンドウで情報を表示する方法を決定できます。また、これらのオプションを用いると、[ANALYSISVIEW](#) コマンドを設定することができ、それによって、PC-DMISが、実行中に、以下の選択されたモードのうちのひとつにおいて、スクリーン キャプチャーを行います。(「分析ビューコマンドの作成」を参照して下さい。)

以下のオプションを選択できます：

2D プロットコマンドの挿入

肖像

このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なポートレートのパージサイズと一致します。

ランドスケープ

このオプションは分析ウィンドウをサイズし、それが標準的なランドスケープのパージサイズと一致します。

ページ全体に拡大

このチェックボックスはウィンドウをスケールして、それは全体の印刷されたページに合わせます。

2D プロットコマンドの挿入

このセクションの主なトピックは、次のとおり:

2D プロットについて

スキャンプロット

2D プロットについて

ユーザーは 2D プロット機能を使って 2D 曲線プロットを作成できます。この機能を使用してすべての種類の 2D スキャンのプロットを生成します。

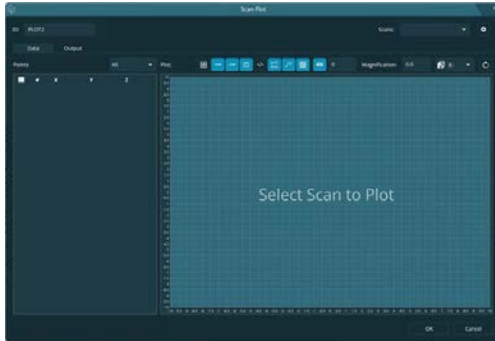
プロットをスキャンする

PC-DMIS ではスキャンの 2D プロットを作成できます。

スキャンプロットの作成

スキャンプロットを作成するには以下の手順に従います：

1. [挿入 | レポートコマンド | 2D プロット | スキャンプロット] メニューオプションを選択し、[スキャンプロット] ダイアログボックスを開きます。



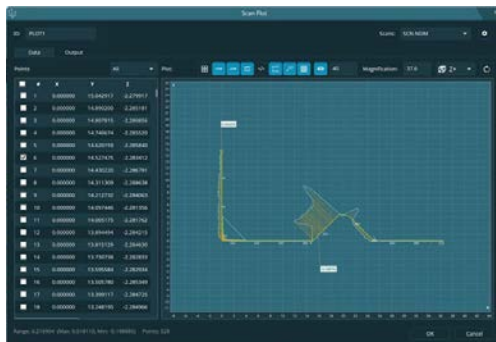
2. 次のオプションを完了します:


- **ID** – このボックスを使用してスキヤンのプロット名を入力します。
- **スキャン** – 一覧からプロットを作成するための スキャン ID を入力します。

3. **[OK]** ボタンをクリックしてプロットを作成します。

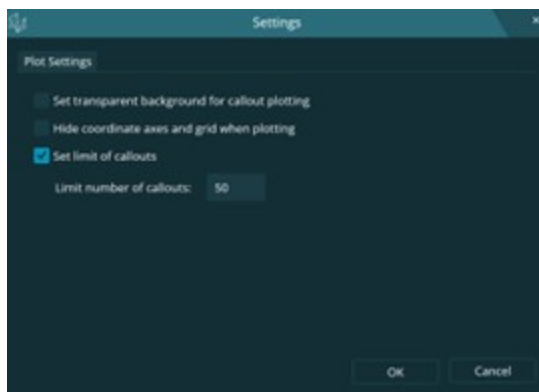
スキャンプロットダイアログボックスを理解する

[挿入 | レポートコマンド | 2D プロット | スキャンプロット] メニューオプションを選択し、[スキャンプロット] ダイアログボックスを開きます。



- **ID** – このボックスを使用してスキヤンのプロット名を入力します。
- **スキャン** – 一覧からプロットを生成するための スキャン ID を入力します。
-  **設定** - このアイコンを選択して [設定] ダイアログボックスを開きます。このボックスでデフォルト設定を編集できます。

2D プロットコマンドの挿入



- **吹き出しの描画に透明な背景を設定する** – 吹き出しの背景を透明にしたい場合、このチェックボックスをオンにします。これはカラーの吹き出しを印刷したくないときにインクの節約に役立ちます。
 - **描画時に座標軸とグリッドを非表示にする** – このチェックボックスをオンにして座標軸とグリッドを非表示にします。
 - **吹き出しの制限を設定する** – このオプションを使用してプロットに含める吹き出しの最大数を定義します。デフォルト値は**50**です。これによってプロット領域が整然とした状態になり意味のある情報が提供されます。
- **ステータス バー**

Range: 0.216994 (Max: 0.018110, Min: -0.198885) Points: 528

プロット領域の下部にあるステータスバーは、範囲、最大および最小の偏差ならびにスキャンにおける点の総数についての情報を表示します。

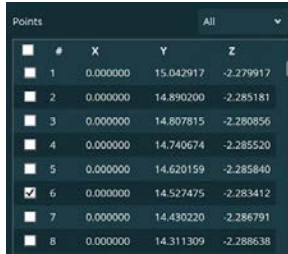
データタブ

データタブには以下の2つのエリアがあります：

- 点エリア
- プロットエリア

点エリア

[プロット] エリアはスキャンにおけるすべての点の順に並んだ一覧から成ります。分離線をドラッグして点の X、Y、Z、I、J、K、T および 公差値を表示できます。T 値はそれらの垂線からのスキャン点の偏差を表します。

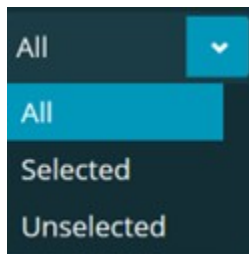


#	X	Y	Z
1	0.000000	15.042917	-2.279917
2	0.000000	14.890200	-2.285181
3	0.000000	14.807815	-2.280856
4	0.000000	14.740674	-2.285520
5	0.000000	14.620159	-2.285840
<input checked="" type="checkbox"/> 6	0.000000	14.527475	-2.283412
7	0.000000	14.430220	-2.286791
8	0.000000	14.311309	-2.288638

- **チェックボックス** – 点のチェックボックスを選択すると PC-DMIS はプロットエリアにおけるその点の偏差を表示します。また、PC-DMIS はレポートにテキスト分析に点を追加します。

すべての点を選択するにはヘッダーエリアにあるチェックボックスをオンにします。すべての点を選択解除するには、ヘッダーエリアにあるチェックボックスをオフにします。

- **表示** – この一覧で PC-DMIS が点エリアに表示する点をコントロールできます。



- **すべて** – このオプションを選択して、点エリアにすべての点を表示します。
- **選択済み** – このオプションを選択して点エリアに選択された点のみを表示します。
- **選択解除** – このオプションを選んで点エリアに選択されていない点のみを表示します。


プロットエリア





アイコンをクリックしてプロットオブジェクトを表示または非表示にします。





適合するようにサイズ変更する – このボタンをクリックしてプロットエリア内に完全に入るようにプロットを調整します。


 **公称上の曲線を表示する** – このアイコンをクリックして公称上の曲線を表示または非表示にします。

 **測定された曲線を表示する** – このアイコンをクリックして測定された曲線を表示または非表示にします。

 **偏差を表示する** – このアイコンをクリックして公称値からの偏差を表示または非表示にします。

 **曲線上に点を表示する** – このアイコンをクリックして曲線上の点を表示または非表示にします。


 **最大/最小偏差の吹き出しを表示する** – このアイコンをクリックして、最大偏差および最小偏差である点の吹き出しを表示または非表示にします。最大偏差は通常より多くの材質を示す正の偏差であり、最小偏差は通常より少ない材質を示す負の偏差です。最大偏差と最小偏差の両方が動的であり、それぞれの実行で選択および表示されます。


 **吹き出しを表示する** – このアイコンをクリックして公称上の点における偏差を表示または非表示にします。

Ctrl を押しながらプロットエリアでの公称上の点を左クリックしてその吹き出しを表示します。PC-DMIS は点エリアにおけるこの点を選択します。また、点一覧エリアから点を選択してそれらの吹き出しを表示することができます。

デフォルトでは吹き出しの数は 50 に制限されています。[設定] ダイアログボックスで吹き出しの数を変更することができます。吹き出しの数の変更方法については、PC-DMIS Core ドキュメントの「スキャンプロットダイアログボックスの理解」セクションを参照してください。

吹き出しを希望の場所に移動することができます。これを行うには吹き出しを左クリックしたまま希望の場所にドラッグします。プロットは吹き出しの位置を記憶し、実行毎にそれを印刷します。

 **グリッドを表示する** – このアイコンをクリックしてグリッドを表示または非表示にします。

 **点の数を表示する** – プロットを作成すると PC-DMIS は巧妙に点にマーキングを割り当てます。PC-DMIS は点の数を均等に配置し、点の数のマーキングが広が

ってスキャン方向を表示することによって注目している領域が見つけやすくなるようにします。このアイコンをクリックしてこの機能を有効にします。

Magnification: 30.0

スマート拡大 – ユーザーがプロットを作成すると PC-DMIS は偏差の倍率を巧妙に適切に割り当てます。PC-DMIS は偏差の曲線が歪なしで明瞭に表示されるように倍率を計算して、偏差の明白な像を提供します。これは迅速な決定に役立ちます。また、好みの倍率値を入力できます。



軸の表示 一覧 – 一覧から必要な軸の表示を選択します。プロット平面は XY、YZ または ZX になります。デフォルトでは対応する表示軸はそれぞれ X+、X-、Y+、Y-、Z+ および Z- です。



表示の回転 – このアイコンをクリックして表示を 90 度回転します。

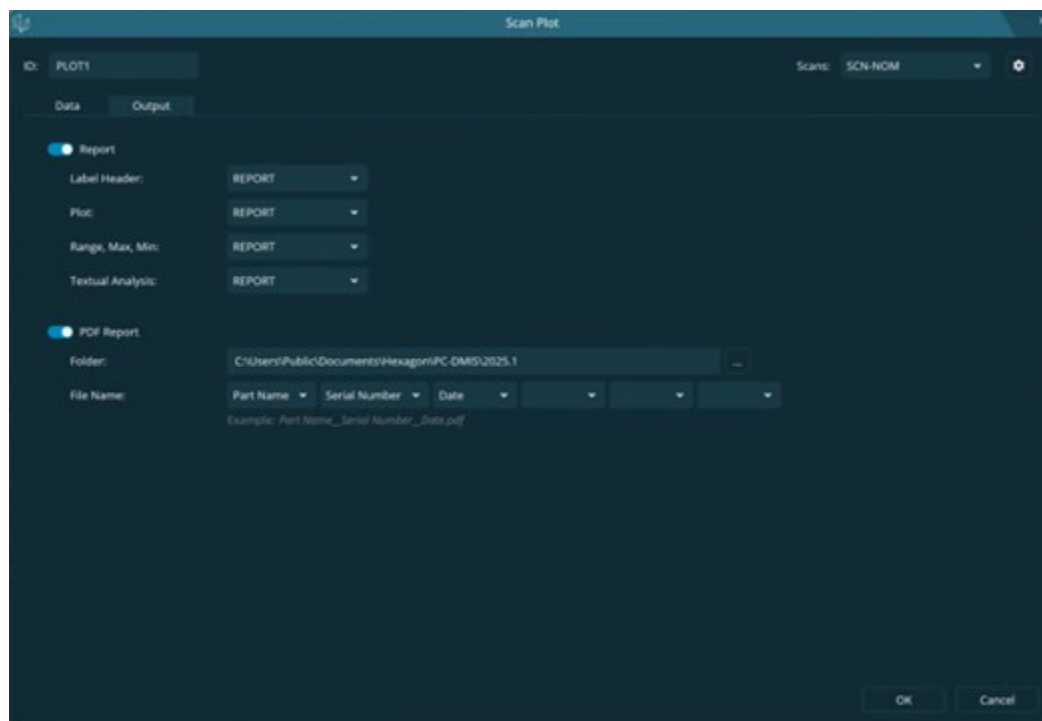
パンとズーム – 左マウスボタンを押しながらプロットを希望の位置に移動します。マウスのスクロールを使用してズームインおよびズームアウトします。

クリップボードにコピーする – レポート目的でプロットをコピーして他の任意の文書に貼り付けることができます。プロットをコピーするには、プロットの領域を右クリックして [クリップボードにコピーする] を選択します。

出力タブ

[出力] タブではレポートを設定できます。

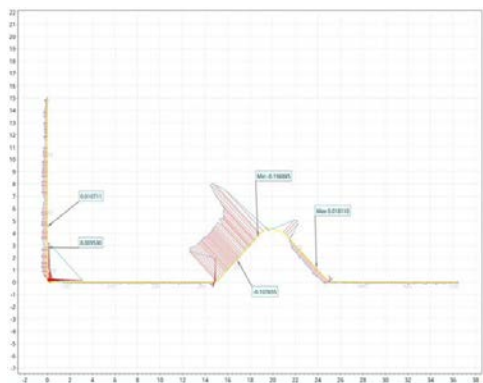
2D プロットコマンドの挿入



- レポート - このトグル (切り替え) ボタンをオンにしてプロットレポートを生成します。
 - ラベルヘッダー - これは [レポート/なし] オプションです。これをレポートに設定すると PC-DMIS はラベルヘッダーをレポートに挿入します。そうでない場合、ラベルヘッダーはレポートに挿入されません。

✓	mm	PLOT1 - SCN-NOM
---	----	-----------------

- プロット - これは [レポート/なし] オプションです。これをレポートに設定すると、プロットタブに表示されるようにプロットをレポートに挿入します。そうでない場合、プロットはレポートに挿入されません。



- **範囲、最大、最小** - これは [レポート/なし] オプションです。これをレポートに設定すると PC-DMIS は範囲、最大および最小の値をレポートに挿入します。そうでない場合、プロットはレポートに挿入されません。

MAX	NOMINAL	MEAS
MAX_T (340)	0.000000	0.010904
MIN_T (340)	0.000000	0.010110
MAX_T (340)	0.000000	-0.100000

- **テキスト分析** - これは [レポート/なし] オプションです。これをレポートに設定すると PC-DMIS は範囲、最大および最小の値をレポートに挿入します。そうでない場合、プロットはレポートに挿入されません。

HITS	THEO X	Y	Z	VECTOR I	J	K	T Value	+TOL	-TOL	OUTTOL
93	0.000000	4.518857	-2.284768	-1.000000	0.000000	0.000000	0.010711	0.050000	0.050000	0.000000
106	0.000000	2.827435	-2.288707	-1.000000	0.000000	0.000000	0.009530	0.050000	0.050000	0.000000
324	16.830554	1.830554	-2.280705	0.707107	-0.707107	0.000000	-0.107655	0.050000	0.050000	0.057655

- **PDF レポート** - このトグル (切り替え) ボタンをオンにしてレポートを PDF ファイルとして保存します。
 - **フォルダー** - このボックスを使用して、PDF ファイルを保存するパスを入力するか、または [ブラウズ (...)] ボタンをクリックして保存する場所に移動します。
 - **ファイル名** - 一覧ボックスを使用して、PDF ファイルの名前規則を定義します。一覧におけるオプションは、パート名、ID、シリアル番号、改訂番号、日付および時刻です。

単一ファイルでの複数プロット

PC-DMIS では単一計測のすべてのプロットまたは 単一パートを 1 つの PDF ファイルに保存できます。プロットファイルの名前が選択されたフォルダーにある場合、Plot (

2D プロットコマンドの挿入

プロット) コマンドは現在のプロットを同じファイルに付加します。ファイルが見つからない場合、PC-DMIS は新しい PDF ファイルを作成します。

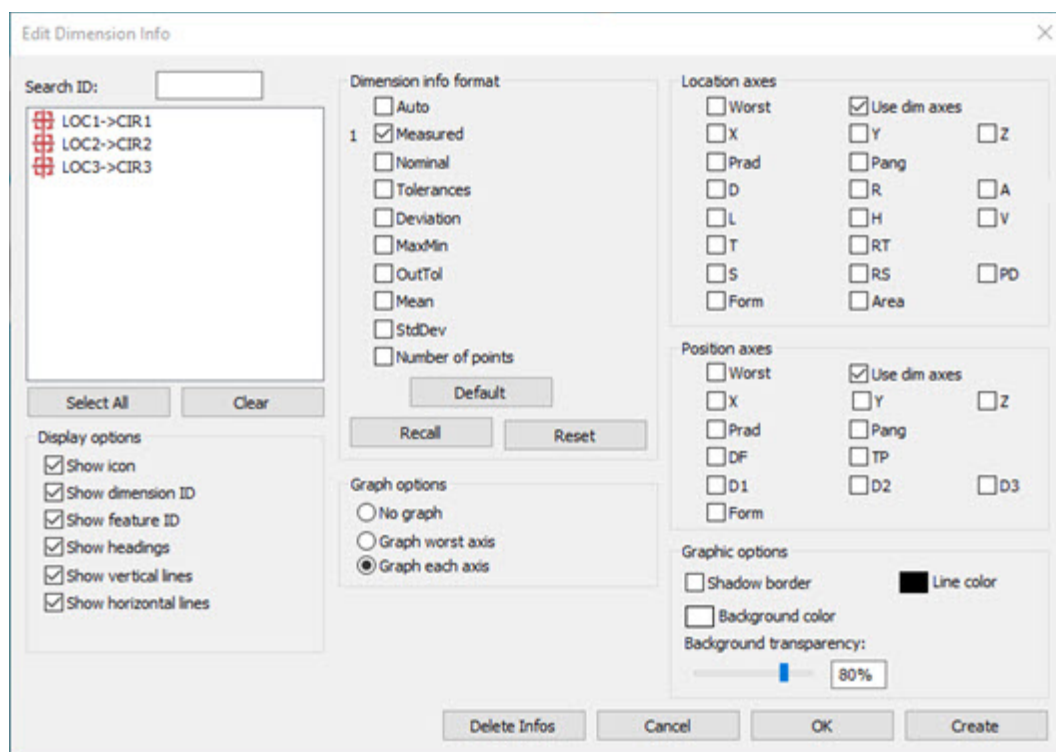
単一ファイルでの複数プロット

- 同ースキャンで複数のプロットをレポートに追加することができます。これを行うには、下記手順に従います:
 1. プロットコマンド 1 の作成:
 - a. [出力] タブにある [ラベルヘッダー] および [プロット] 一覧から [レポート] を選択します。
 - b. [出力] タブにある [範囲]、[最大]、[最小] および [テキスト分析] 一覧から [なし] を選択します。
 2. コマンドの複製:
 - a. 第一プロットコマンドをコピーしそれに新しい名前を付けます。
 - b. プロットを調整して関心のある領域に集中するようにします。
 - c. [出力] タブにある [範囲]、[最大]、[最小] および [テキスト分析] 一覧から [レポート] を選択します。

この方法によってスキャンの表示が 3 つあるレポートが生成されます。

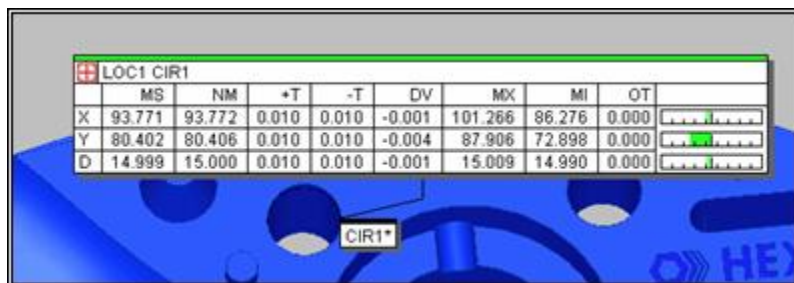
- 同一パートの複数プロットまたは同一タイプの複数パートを単一ファイルに保存することができます。
 - [同一ファイルに付加する] - プロットを保存するファイル名が同じ場合、PC-DMIS は新しいプロットを既存ファイルに付加します。
 - 各プロットに対する個別ファイル - ファイル名に日付および時刻を追加する場合、PC-DMIS は各プロットを個別のファイルに保存します。
 - 特定パートに対する単一ファイル - ファイル名にパート番号およびシリアル番号を追加すると、PC-DMIS は同一のシリアル番号でパートに対するすべてのプロットを単一ファイルに保存します。
 - 複数パートでの単一ファイル - ファイル名にパート名のみを使用する場合、PC-DMIS は複数パートからのプロットを単一ファイルに保存します。

測定寸法情報ボックス挿入



[寸法情報の編集] ダイアログボックス

挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報 メニュー オプションを選ぶと寸法情報編集ダイアログボックスが現れます。このダイアログを用いると、[DIMINFO](#) コマンドが作成され、このコマンドによって、グラフィック表示ウィンドウ内に、選択された測定寸法情報が表示されます。編集ウィンドウでの[DIMINFO](#)コマンド編集に関する情報については、「[DIMINFOコマンド](#)」を参照して下さい。



[寸法情報] ダイアログボックスの例

寸法にすでにDIMINFOテキストボックスが含まれている場合、ダイアログボックス内の寸法一覧にはアスタリスク (*) が表示されます。グラフィック表示ウィンドウで

測定寸法情報ボックス挿入

DIMINFOテキストボックスが非表示になる場合、寸法一覧には番号記号（#）が表示されます。

```
LOC1->CIR1->*  
LOC2->CIR2->*#  
LOC3->CIR3
```

既存および非表示 DIMINFO ボックスの付いた寸法一覧の例。

自動チェック ボックス (このダイアログの**寸法情報フォーマット**エリアの下) は、選択された寸法のタイプに基づいて、表示に適切な測定寸法出力フォーマットを自動的に決定します。このオプションをくつがえすためには、ご希望の**測定寸法情報フォーマット**チェック ボックス (複数可) を選択して下さい。PC-DMISは、当該チェック ボックスの左側に数字を表示し、出力セレクションの順序を示します。このようにして、ニーズに合わせてフォーマットの順序を定義できます。チェック ボックスを二度目に選択することで、そのチェックを消去できます。

このダイアログボックスが開いている場合は、自動的に**寸法一覧**ボックスにその要素を使っている寸法を強調するためにグラフィックス表示ウィンドウで要素をクリックすることができます。

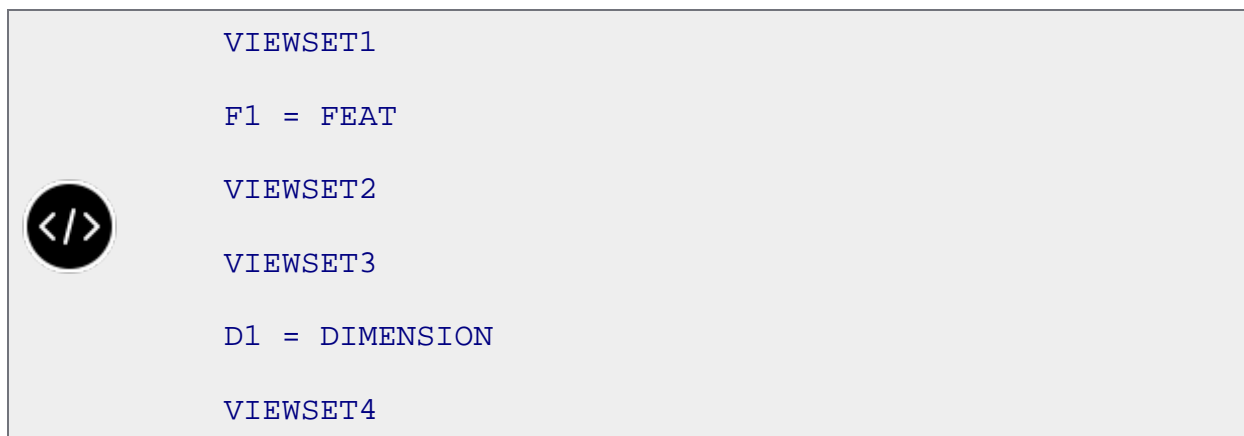
この**[寸法情報の編集]**ダイアログボックスを使用すると、PC-DMISが表示する寸法情報を編集できます。以下の段落はこのダイアログボックスに利用可能なオプションを説明しています。

測定寸法情報作成ルール

[測定結果情報の編集] ダイアログボックスからDIMINFOボックスを作成する場合、**[測定結果一覧]** ボックスはカーソルの現在位置より上にある測定結果のみ表示します。

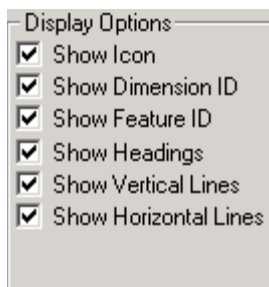
テキストボックスモードで DIMINFO ボックスを作成し、グラフィック表示ウィンドウでボックス選択すると、PC-DMISは選択されたすべての要素に対して DIMINFO ボックスを作成するわけではありません。PC-DMIS はカーソルの現在の位置より上にある要素に対してのみ DIMINFO ボックスを作成します。

測定ルーチンが複数のビューセットを持つ場合、対応する測定寸法かそれ以下の寸法を含むビューセットにおいてのみ、DIMINFOボックスは表示されます。例えば、測定ルーチンに以下のコマンドがあったと想定します



挿入点がD1の下に存在していた場合に、要素f1のDIMINFOボックスのみを追加することができます。DIMINFOボックスが作成されると、PC-DMISはVIEWSET1および2ではなく、VIEWSET3および4でそれを表示します。

表示オプション



[表示オプション]エリアを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で、各測定結果を表示する場合の各種様式が利用可能になります。

以下のオプションが利用可能です。

アイコン表示チェックボックス

このチェックボックスは **寸法情報** ボックスのヘッド場所の適切な寸法のアイコンの表示を切り替えます。

寸法表示 ID チェックボックス

このチェックボックスはグラフィックス表示ウィンドウ内の寸法のIDを表示する能力を切り替えます。

測定寸法情報ボックス挿入

要素IDを表示チェックボックス

このチェックボックスは寸法が測定される要素のIDを表示する能力を切り替えます。

タイトル表示チェックボックス

このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行と列の見出しの表示を切り替えます。

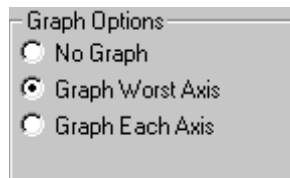
垂直線表示チェックボックス

このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の列の間の縦線の表示を切り替えます。

水平線表示チェックボックス

このチェックボックスは、寸法情報ボックス内の行の間の横線の表示を切り替えます。

グラフ オプション



Graph オプション エリアはグラフオプションのグラフィカルが寸法情報 ボックス内の寸法の割合を表示します。

非グラフ - 寸法情報ボックスに、グラフを表示したくない場合は、このオプションを選択します。

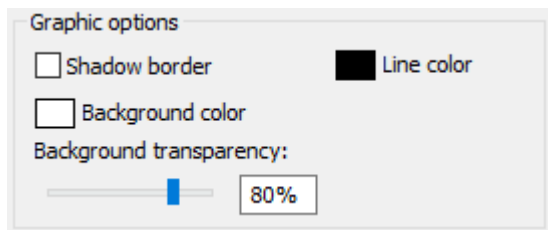
最悪軸の描画 - 寸法情報ボックスの上にグラフを表示するには、このオプションを選択します。最悪測定寸法のパーセンテージのみが、グラフに表示されます。

各軸を描画 - 寸法情報ボックスに、すべての軸の寸法の割合グラフを表示するには、このオプションを選択します。

LOC1 CIR1									
	MS	NM	+T	-T	DV	MX	MI	OT	
X	93.771	93.772	0.010	0.010	-0.001	101.266	86.276	0.000	
Y	80.402	80.406	0.010	0.010	-0.004	87.906	72.898	0.000	
D	14.999	15.000	0.010	0.010	-0.001	15.009	14.990	0.000	

[寸法情報] ボックス

画像オプション



[グラフィックオプション] エリア

グラフィックオプションエリアでは、グラフィック表示ウィンドウにおける現在の測定結果情報ボックスのグラフィックオプションを設定できます。

影の境界線

このチェックボックスは、ラベルの下に小さな影を表示します。

背景色

このボックスでは、[色] ダイアログボックスが開いてラベルの背景色を変更できるようになります。

背景の透明度

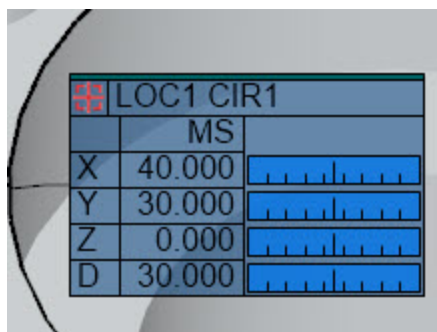
このスライダーまたはその右にあるボックスを使うと、ラベルの背景色の透明度レベルを調整できます。値は 0 (不透明)~100 (完全に透明) を取ります。

線の色

このボックスでは、[色] ダイアログボックスが開いてラベルの枠線色を変更できるようになります。

測定結果情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから希望のオプションを選択して、[測定結果情報を編集する] ダイアログボックスの [作成] または [OK] をクリックします。

測定寸法情報ボックス挿入



青色の背景色で透明度50%に設定された寸法情報ボックスの例

また、将来の測定結果情報ボックスのデフォルトグラフィックオプションを設定することができます。これを行うには、希望のグラフィックオプションを選択し、**[測定結果情報フォーマット]** エリアの **[デフォルト]** ボタンをクリックします。



このトピックは、旧式の要素ラベルにのみ適用されます。**[要素の外観]** ダイアログボックスの**[旧式のグラフィックラベルを使用する]** チェックボックスから、旧式の要素ラベルを有効にできます。このチェックボックスをオフにして新しい要素ラベルを使用しても、このエリアは影響を受けません。詳細については、「CAD表示の編集」章の「要素外観の編集」のトピックを参照してください。

寸法情報のフォーマット

Dimension Info Format

☐ Auto

1 ☒ Measured

2 ☒ Nominal

3 ☒ Tolerances

4 ☒ Deviation

5 ☒ MaxMin

6 ☒ OutTol

7 ☒ Mean

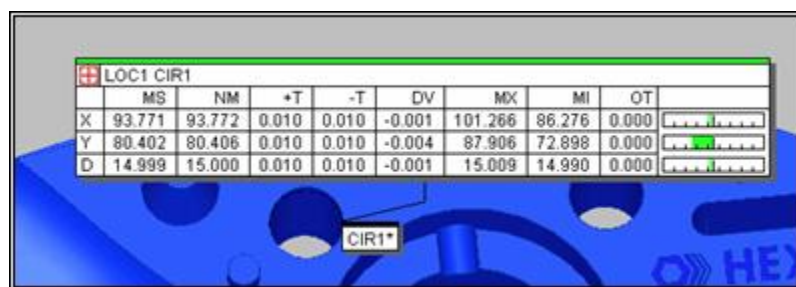
8 ☒ StdDev

9 ☒ Number of Points

Default

Recall Reset

測定寸法情報フォーマットエリアのチェック ボックスを用いると、グラフィックス表示ウィンドウ内で表示される、各寸法の情報タイプを選択することができます。測定寸法のダイアログ ボックス内から表示チェック ボックスが選択された場合、PC-DMISは、グラフィックス表示ウィンドウ内にその情報を表示します。



CIR1 要素の寸法データを示すグラフィック表示ウィンドウ。

ダイアログ ボックスの [測定結果情報] エリアは以下のようになります：

自動

自動ボックスは以下の情報を自動的に表示します：測定値、公称値、公差、偏差、最大最小、公差範囲外。

測定値

このチェックボックスは実際に測定された測定結果を表示します。

公称値

このチェックボックスは測定結果の理論値を表示します。

測定寸法情報ボックス挿入

公差

このチェックボックスは公称値より大きい、または小さい公差レベルで受け入れ可能なものを表示します。

偏差

このチェックボックスは公称値から測定値の偏差を表示します。

最大最小

このチェックボックスには測定結果を作成する点からの最大偏差値と最小偏差値が表示されます。任意の測定結果についてこれをマークできますが、それは線プロファイルおよび面プロファイルの測定結果に対してのみ意味をなします。この一例としては、「ユーザー設定」章の「パラメータ設定：測定結果タブ」トピックを参照してください。

公差範囲外

このチェックボックスは測定値の公差が公称値からどれだけ離れているかとその公差値を表示します。

平均

このチェックボックスは測定結果のすべての偏差の平均を表示します。

標準偏差

このチェックボックスは測定結果のすべての偏差の標準偏差を表示します。

点の数

このチェックボックスは測定結果の要素測定に使用する点の数を表示します。

コマンドボタンは、次のとおりです：

読出し - セット・デフォルトを読み出します。

デフォルト - デフォルトとしてチェックボックスの現時点の選択を設定します。

リセット - このボタンはこのセクションのすべてのマックされたボックスをクリアして自動チェックボックスを選択します。

位置の軸線

Location axes		
<input type="checkbox"/> Worst	<input checked="" type="checkbox"/> Use dim axes	
<input checked="" type="checkbox"/> X	<input type="checkbox"/> Y	<input type="checkbox"/> Z
<input type="checkbox"/> Prad	<input type="checkbox"/> Pang	
<input type="checkbox"/> D	<input type="checkbox"/> R	<input type="checkbox"/> A
<input type="checkbox"/> L	<input type="checkbox"/> H	<input type="checkbox"/> V
<input type="checkbox"/> T	<input type="checkbox"/> RT	
<input type="checkbox"/> S	<input type="checkbox"/> RS	<input type="checkbox"/> PD
<input type="checkbox"/> Form	<input type="checkbox"/> Area	

この表では、寸法情報を編集するときに選択できる使用可能な**位置軸**とその機能について説明します。

以下のオプションが利用できます:

最悪チェックボックス

このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス

このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

Xチェックボックス

このオプションは、X軸の値を表示します。

Yチェックボックス

このオプションは、Y軸の値を表示します。

Zチェックボックス

このオプションは、Z軸の値を表示します。

PRADチェックボックス

PRADは極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

Pangチェックボックス

パンは極角度の略です。このオプションは極座標を選択します。

測定寸法情報ボックス挿入

エリアチェックボックス

これは選択されたプロブ要素のエリアを表示します。それがDIMINFOボックス及びレポートにARとして表示されます。レガシーレポートは（PC-DMIS Visionは、プロブの機能を使用しています）また、位置エリアから寸法軸を使用チェックボックスをマークした場合にこの情報のみが表示されます。寸法軸の使用の詳細については、「位置座標軸」を参照してください。

Dチェックボックス

このオプションは、直径の値を表示します。

Rチェックボックス

このオプションは、半径（直径の半分）の値を表示します。

Aチェックボックス

このオプションは、角度（円錐の場合）の値を表示します。

Lチェックボックス

このオプションは、長さ（円柱、スロット、円錐、および楕円に使用）を表示します。

Hチェックボックス

このオプションは高さを表示します。

Vチェックボックス

このオプションは、ベクターの位置を表示します。

Tチェックボックス

曲面上のポイントの場合、このオプションは、要素のベクトルに沿った公称値からの偏差を表示します。

RTチェックボックス

このオプションはレポート ベクトルに沿った偏差を表示します。

Sチェックボックス

このオプションは表面ベクトルに沿った偏差を表示します。

RTチェックボックス

このオプションは表面のレポート ベクトルに沿った偏差を表示します。

PDチェックボックス

このオプションは円の直径 (ピンのベクトルに垂直)を表示します。

形状チェックボックス

このオプションは要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

位置の軸

The image shows a dialog box titled "Position Axes". It contains several checkboxes arranged in two columns. The first column includes "Worst", "X", "Prad", "DF", "D1", and "Form". The second column includes "Use Dim Axes" (which is checked), "Y", "Pang", "TP", "D2", and "D3". The "Z" checkbox is located to the right of the "Y" checkbox.

この表には、測定寸法情報を編集中に、選択可能な**位置軸**とその機能についての内容説明があります。

以下のオプションが利用可能です。

最悪チェックボックス

このオプションは公差状態の最悪のアウトを提供する軸を使用します。PC-DMIS は利用可能な軸 を検索して寸法の最悪ケースシナリオを提供するのを選択します。

寸法軸の使用チェックボックス

このチェックボックスは寸法のダイアログ ボックスに以前定義された軸を使用します。

Xチェックボックス

このチェックボックスはX 軸の値を表示します。

Yチェックボックス

このチェックボックスはY 軸の値を表示します。

Zチェックボックス

このチェックボックスはZ 軸の値を表示します。

PRADチェックボックス

PRADは極半径を表しています。このオプションは極座標を選択します。

測定寸法情報ボックス挿入

Pangチェックボックス

パンは極角度の略です。このチェックボックスは極座標を選択します。

DFチェックボックス

このチェックボックスは要素の直径を表示します。

TPチェックボックス

このチェックボックスは位置公差およびそれに関連する寸法を表示します。

D1チェックボックス

このチェックボックスは一番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D2チェックボックス

このチェックボックスは二番目の基準要素の直径/幅を表示します。

D3チェックボックス

このチェックボックスは三番目の基準要素の直径/幅を表示します。

形状チェックボックス

このチェックボックスは要素向けの統合された形の寸法を表示します。詳細については、「レガシー寸法の使用」章の「位置寸法のデフォルト軸」を参照してください。

情報削除

A rectangular button with a light gray background and a thin black border. The text "Delete Infos" is centered in a dark gray font.

[情報削除] ボタンは測定ルーチンからすべての [DIMINFO] コマンドを削除します。

DIMINFOコマンド

DIMINFOコマンドは、[寸法情報の編集]ダイアログボックス（[挿入 | レポートコマンド | 寸法情報]）から作成できます。

測定ルーチンにDIMINFOコマンドを挿入すると、PC-DMISはグラフィック表示ウィンドウに寸法データを表示します。DIMINFOコマンドを編集ウィンドウで変更できます。DIMINFO コマンドのコマンドラインは以下のように読み込めます:



```
DIMINFO/Dim ID ;ICON,DIMID,FEATID,VERT,HORIZ;
HEADINGS, "GRAPH OPTION";"DIMENSION OUTPUT", , $
"AXES OUTPUT"
```

寸法ID - これは、選択した寸法のIDです。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示するトグル スtringです。オンになる時には、DIMINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法と要素IDを表示します。

DIMID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「DIMID」を表示する トグル Stringです。オンの時には、DIMIDが、測定寸法情報と共に、測定寸法IDを表示します。

FEATID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「FEATID」を表示するトグル Stringです。オンの時には、DIMIDが測定寸法情報と共に、測定寸法の一 番目の要素のIDを表示します。

VERT = オフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示するトグル文字列です。オンの時には、DIMINFOが列間の縦線と共に、表示されます。

HORIZ = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示するトグル文字列です。オンの時には、DIMINFO が行間の横線と共に、表示されます。

HEADINGS = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する切り替えの文字列です。オンの場合、PC-DMISは[寸法情報]ボックスに列ヘッダーと行ヘッダーを表示します。

GRAPH OPTION - グラフオプションのグラフィカルは 寸法情報 ボックス内の寸法の割合を表示します。可能なトグル値は、GRAPH WORSTとGRAPH AXISです。トグル文字列が空白を示す場合、PC-DMISはボックスにグラフを表示しません。

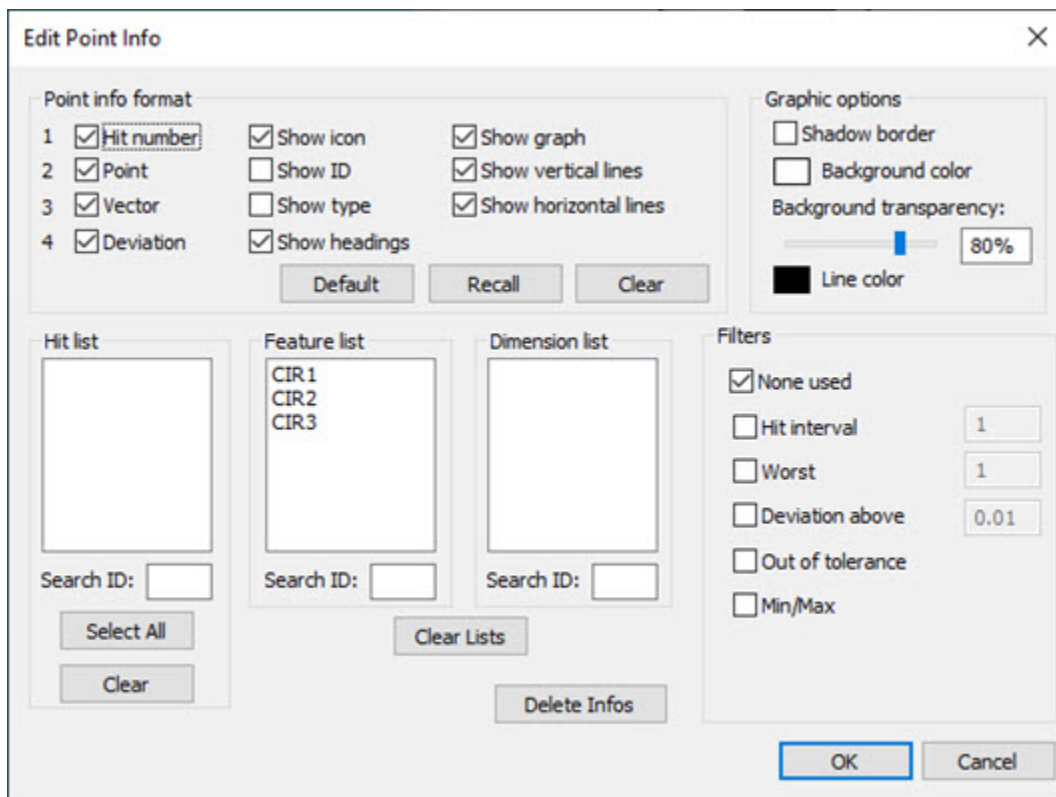
寸法出力 - これは、選択の順序に基づいて、表示される寸法情報の形式を定義します。利用可能な出力オプションは、測定値、名目値、公差、偏差、最大最小、公差域外、中間値、標準偏差、及び、ポイント数。オプションを複製することはできません。

軸出力 - これは、選択の順序に基づいて、表示される寸法軸の形式を定義します。利用可能な軸 は寸法の種類に依存して全部の場所と場所軸を含めます。USEDIMを最初の軸位置に切り替えると、DIMINFOは寸法で指定された軸を表示します。いずれかの軸位置でWORSTを切り替えると、PC-DMISは最大の許容範

[点データ]ボックスの挿入


囲外の値を生成した軸を表示します。この出力は、場所と位置の寸法でのみ使用できます。軸を複製することはできません。

[点データ]ボックスの挿入



[点情報の編集] ダイアログボックス

挿入 | レポート コマンド | ポイント情報メニュー オプションを選ぶとポイント情報編集ダイアログボックスが現れます。このダイアログボックスは、グラフィックの表示で個々のポイントの情報を表示するPOINTINFOコマンドを作成します。各情報ボックスはヒット番号、XYZの位置、IJK 角、また特定のヒットに関連する偏差を表示します。編集ウィンドウでのPOINTINFO コマンドに関する情報については、「POINTINFO コマンド」トピックを参照して下さい。

	CIR1 CIRCLE		
H	1		
PT	1.4756	0.9818	0.9060
V	-1.0000	-0.0041	0.0034
DV	0.0129		

ポイント情報ボックスが円要素内の一番目のヒットを表示します。

グラフィック表示ウィンドウに点情報を挿入するには、次の手順に従います：

1. 挿入 | レポート コマンド | ポイント情報メニュー オプションを選ぶと、ポイント情報編集ダイアログ ボックスが現れます。
2. 要素一覧または寸法一覧から、少なくとも1つの要素または寸法を選択します。選択されたアイテムに関連付けられる個々のポイントは ヒットリスト ボックスに表示されます。複数の寸法や要素が選択された場合は、ヒットリストが表示されず、寸法や要素からの全ての点は、情報ボックスに表示されます。
3. 取込み点リストボックスから表示したい1つまたは複数の点を選択します。
4. 点情報の形式エリアから、表示したい項目をマークします。チェックボックスの横に表示される任意の数字は行の順序を示します。
5. [OK]ボタンをクリックして、グラフィック表示ウィンドウに情報ボックスを作成します。

ユーザは類似の方法で寸法情報ボックスのフォーマットに形式を保存、変更及び移動することができます。寸法情報ボックスの詳細については、「寸法情報ボックスの挿入」を参照してください。



ダイアログ ボックスのこの部分では、要素または測定結果の横にあるグラフィックス表示エリアに表示する、情報のタイプを決定します。このセクションのチェックボックスは、[作成](編集時は[適用])ボタンと連動して使用されるか、表示する情報を選択または削除するには[OK]ボタンと連動して使用する必要があります。チェックボックスの横に表示される任意の数字は行の順序を示します。

ヒット数 - チェックボックスは要素の点のヒットシーケンスを表示します。



円が一般的に4つの取込み点を取得し、その円の測定に使用される取込み点の1つが選択された場合、このオプションはその取込み点が順番に (1番目、2番目、3番目、4番目) 取得されたタイミングを示す番号 (1~4) を表示します。

ポイント - チェックボックスが選択されたヒットのX、Y及びZ点の位置を表示します。

ベクトル - このチェックボックスは選択されたヒットのIJK角度を表示します。

偏差 - チェックボックスは、点の理論値からのずれを表示します。

- 要素に対しては、点のずれは測定された取込点と実際の取込点の間の距離となります。
- 寸法に対しては、点のずれは寸法の型に関連し、テキスト形式の寸法分析に現れる個別の点に対するずれの表示と同じです。

アイコンを表示 - このチェックボックスは寸法情報ボックスのヘッダ部分に要素のアイコンを表示します。

IDを表示 - このチェックボックス は特定寸法または要素のIDを表示できます。

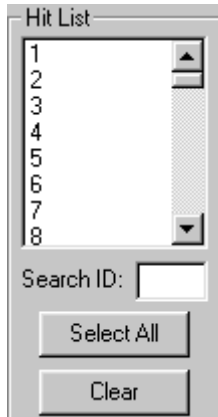
タイプを表示 - チェックボックスは表示された要素または寸法のタイプを表示できます。

見出しの表示 - このチェックボックス はポイント情報 ボックス内の行の見出しを表示できます。

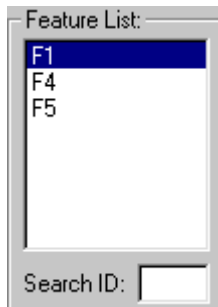
グラフを表示 - このチェックボックスはポイント情報ボックス内の寸法の割合グラフを表示できます。

垂直線を表示 - このチェックボックスはポイント情報 ボックス内の垂直線を表示または非表示できます。

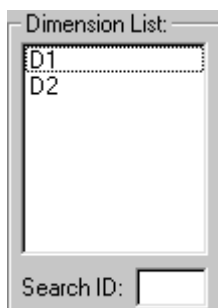
水平線を表示 - このチェックボックスはポイント情報ボックス内の水平線を表示または非表示できます。



ヒット リスト ボックスは特定の機能または寸法に関連付けられるすべてのヒットのリストが含まれます。単に、読みたい情報を持つヒットを選択して下さい。



要素リスト ボックスは特定の測定ルーチンに関連付けられるすべての要素のリストが含まれます。単に、閲覧したいヒットの情報を持つ要素を選択します。要素に関連した取込点は **取込点の一覧** ボックスに表示されます。



[測定結果一覧] ボックスには、特定の測定ルーチンに関連するすべての測定結果の一覧が含まれています。取込み点情報を表示したい測定結果を選択して下さい。

[点データ]ボックスの挿入

PC-DMISはその測定結果に関連する取込み点を [取込み点一覧] ボックスに表示します。

情報削除

Delete Infos

[情報削除] ボタンは測定ルーチンからすべての [POINTINFO] コマンドを削除します。

POINTINFO コマンド

POINTINFO コマンドは、測定寸法情報編集 ダイアログ ボックス (挿入 | レポート コマンド | 測定寸法情報)によって作成されます。

POINTINFO コマンドが測定ルーチンに挿入された場合、ポイント情報 ボックスはグラフィックの表示ウィンドウに表示されます。POINTINFO コマンドが編集ウィンドウに変更されます。POINTINFO コマンドのコマンドラインは以下のように読み込みます:



```
POINTINFO/Dim ID or Feat ID; FILTER FILTER_TYPE  
FILTER_NUM;ICON,ID,TYPE,VERT,HORIZ; HEADINGS,  
GRAPH; "OUTPUT FORMAT" ,  
"HIT NUMBERS"
```

寸法 ID または要素 ID - 寸法または要素のIDは表示されます。

FILTER_TYPE = トグル文字列はNONE, INTERVAL, WORST, DEVIATION、またはOUTTOLフィルタオプションを表示します。

FILTER_NUM = フィルタオプションがINTERVAL, WORST、またはDEVIATIONである場合には、番号フィールドは利用可能になります。

ICON - これがオフの時には空白を表示し、オンの時には「ICON」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が、適切なアイコンと共に、測定寸法とフィーチャーIDを表示します。

ID = オフの時には空白を表示し、オンの時には「ID」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が適切なアイコンと共に、測定寸法ID、または、要素IDを表示します。

TYPE - オフの時には空白を表示し、オンの時には「TYPE」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO がポイント情報で要素または寸法(たとえば円、点、丸み、位置など)を表示します。

VERT = オフの時には空白を表示し、オンの時には「VERT」を表示するトグル文字列です。オンの時には、POINTINFO が列間の縦線で表示されます。

HORIZ = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HORIZ」を表示するトグル文字列です。オンの時には、**POINTINFO** が行間の横線と共に、表示されます。

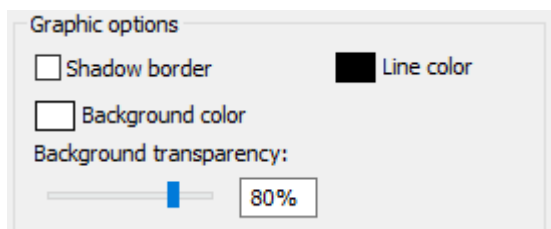
HEADINGS = オフの時には空白を表示し、オンの時には「HEADINGS」を表示する切り替えの文字列です。それがオンする場合、行ヘッダーは**ポイント情報**ボックスに表示されます。

GRAPH - オフの時には空白を表示し、オンの時には「GRAPH」を表示するトグル文字列です。オフの時には、寸法の割合はグラフィカルに**点情報**ボックスに表示されます。

OUTPUT FORMAT - 寸法情報のフォーマットは選択の順序に基づいて表示されます。利用可能な出力オプションは、HIT、PT、V、およびDEVですが、オプションは複製できません。

HIT NUMBERS - ヒット番号はこの特定 **POINTINFO** コマンドでコントロールされる指定番号されたヒットです。**POINTINFO** コマンドの使用で複数ヒットは表示されます。ヒット番号の各フィールドはトグル文字列です。ヒットがONにされる場合、番号の位置の文字列はヒット数は（1,2,3など）です。ヒットがオフの時、文字列の場所の表示は空白のままです。

画像オプション



[グラフィックオプション] エリア

グラフィックオプションエリアでは、グラフィック表示ウィンドウにおける現在の点情報ボックスのグラフィックオプションを設定できます。

影の境界線

このチェックボックスは、ラベルの下に小さな影を表示します。

背景色

このボックスでは、[色] ダイアログボックスが開いてラベルの背景色を変更できるようになります。

背景の透明度

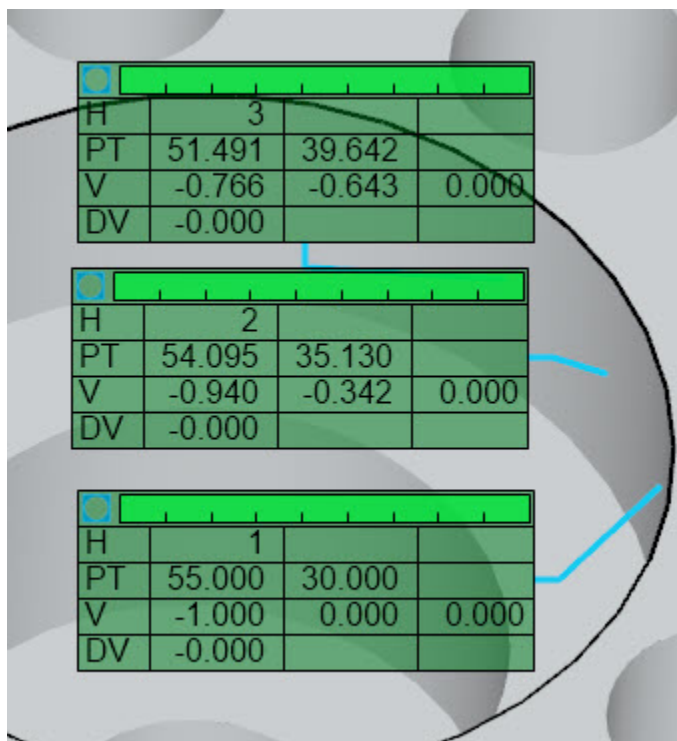
このスライダーまたはその右にあるボックスを使うと、ラベルの背景色の透明度レベルを調整できます。値は 0 (不透明)~100 (完全に透明) を取ります。

[点データ]ボックスの挿入

線の色

このボックスでは、[色] ダイアログボックスが開いてラベルの枠線色を変更できるようになります。

点情報ボックスのグラフィックオプションを変更するには、このエリアから希望のオプションを選択して、[点情報を編集する] ダイアログボックスの [作成] または [OK] をクリックします。

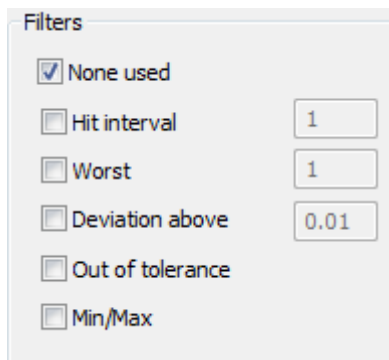


緑色の背景色で透明度50%に設定された点情報ボックスの例

将来の点情報ボックスのデフォルトグラフィックスオプションを設定することができます。これを行うには、希望のグラフィックオプションを選択し、[点情報フォーマット] エリアの [デフォルト] ボタンをクリックします。



このトピックは、旧式の要素ラベルにのみ適用されます。[要素の外観]ダイアログボックスの[旧式のグラフィックラベルを使用する]チェックボックスから、旧式の要素ラベルを有効にできます。このチェックボックスをオフにして新しい要素ラベルを使用しても、このエリアは影響を受けません。詳細については、「CAD表示の編集」章の「要素外観の編集」のトピックを参照してください。



[フィルター] エリア

フィルターエリアでは、PC-DMIS が個々の点情報を表示するときに使用するフィルターオプションを設定することができます。

未使用 - このフィルターオプションは、フィルタリングを [POINTINFO](#) コマンドに使用しないよう PC-DMIS に指示します。すべての選択されたヒットが [POINTINFO](#) コマンドで表示されます。

ヒット間隔 - このフィルターオプションはその右側のボックスの整数値をチェックし、[POINTINFO](#) コマンドで選択した特定のヒット間隔を表示します。例えば、2 が選択された場合、全部の二番目のヒットが表示され、3 の場合、全部の三番目のヒット、4 の場合、全部の四番目のヒットなどです。

最悪 - このフィルターオプションはその右側のボックスの整数値をチェックし、寸法の最悪の偏差を与えるヒットのみを表示します。例えば、ボックスに 3 を入力すると、[POINTINFO](#) コマンドは 3 つの最悪の偏差を表示します。

超過する偏差 - このフィルターオプションはその右側のボックス内の値をチェックし、寸法についてボックス内の値を超える偏差を持つヒットのみを表示します。例えば、ボ

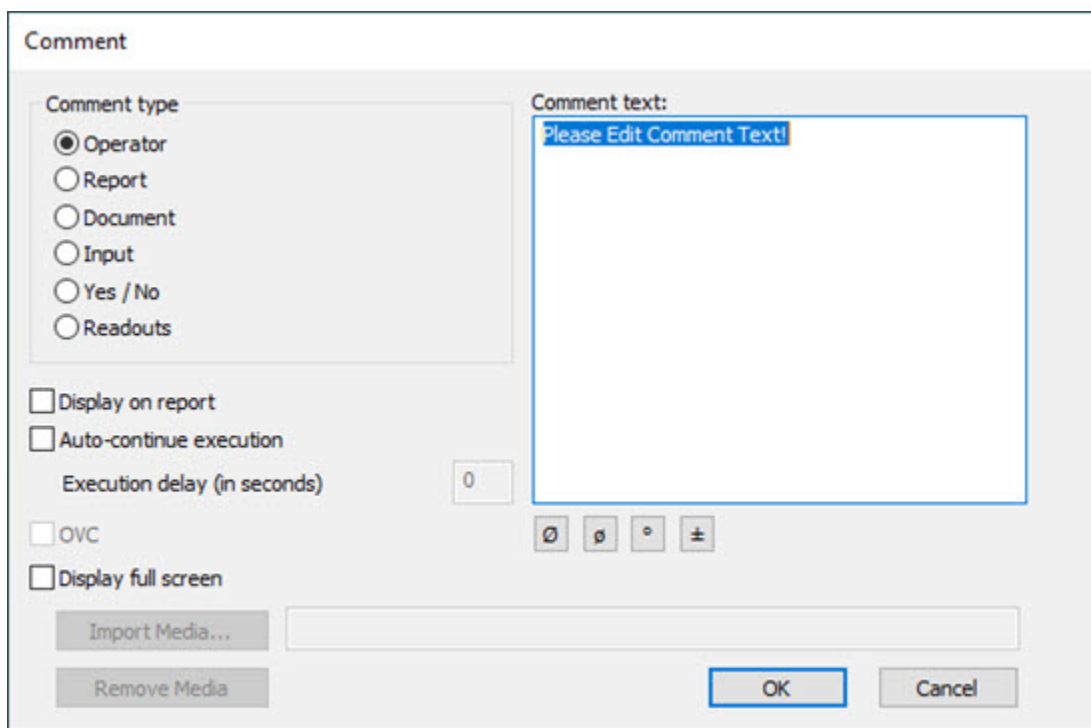
プログラマーのコメント挿入

ックスに0.1を入力すると、POINTINFOコマンドはボックス内の値を超える偏差を持つヒットのみを表示します。

公差範囲外 - このフィルターオプションは公差範囲外の偏差を持つヒットのみを表示します。（測定結果に関連しない）要素に関連するヒットでは、[設定オプション] ダイアログボックスの [一般] タブにある [偏差公差の表示] より大きな偏差をもつヒットのみが表示されます。（「優先設定」章の「偏差公差の表示」を参照してください。）

最小/最大 - このフィルターオプションはそれらの寸法の最大偏差値と最小偏差値を持つヒットのみを表示します。MaxMin値の1例は、「環境設定」章の「パラメータ設定：寸法タブ」トピックを参照してください。

プログラマーのコメント挿入



The image shows a 'Comment' dialog box with the following elements:

- Comment type:** A group box containing radio buttons for 'Operator' (selected), 'Report', 'Document', 'Input', 'Yes / No', and 'Readouts'.
- Comment text:** A large text area containing the placeholder text 'Please Edit Comment Text!'.
- Display on report:** A checkbox.
- Auto-continue execution:** A checkbox.
- Execution delay (in seconds):** A numeric input field with the value '0'.
- OVC:** A checkbox.
- Display full screen:** A checkbox.
- Import Media...:** A button.
- Remove Media:** A button.
- OK:** A button.
- Cancel:** A button.

[コメント] ダイアログボックス

[挿入 | レポートコマンド | コメント]メニューオプションを使用して、オペレーターの注記、説明またはサポートされるメディアファイルを編集ウィンドウに追加でき、測定ルーチンが実行されたときや検査レポートが印刷されたときに表示することができます。コメントのテキストの長さに制限はありませんが、コマンドモードで255文字しか1行に入りません。テキストが編集ウィンドウの右側に達する場合、Enterキーを押します。（これによって、全体のテキストが[コメントテキスト]ボックスに表示されます）

新しい行を作成するには、[コメントテキスト] ボックスの希望の場所にカーソルを置いて ENTER キーを押します。

コメントの入力

コマンドモードで編集ウィンドウにコメントを入力することもできます。これを行うには、COMMENT と入力し、キーボードで TAB キーを押して OPERATOR、REPORT など、希望のコメントの型を入力します。TAB キーを押してコマンドを承認するか、コメントテキストを含むフィールドに移動します。



PC-DMIS コメントを挿入した後、コマンドモードで追加の PC-DMIS コマンドを入力するには、COMMENT コマンドの後に最初に Enter キーを 2 回押す必要があります。これは、ユーザーがコメントにテキストを追加する必要はないが、新しいコマンドを追加する準備ができていることを PC-DMIS に通知します。

コメントの文字列の変数の使用

既存のコメント文字列に変数を結びつけたい、または、付け加えたい、とします。これを行うには、2つの方法があります。最初に ENTER を押し、以下のように新しいコメントラインの変数を入力します:



```
C1          =COMMENT/INPUT,NO,Full Auto-Continue=NO,
              Type your variable
              ASSIGN/V1=C1.INPUT
              COMMENT/OPER,NO,Full Auto-Continue=NO,
              Your V1 variable is
              V1
```

第二に、以下のようにして、変数でない文字列を引用符で囲み、プラス サイン演算子を用いて変数を文字列に付け加えることで、変数とコメント文字列を同じ行に配置することが可能です:



```
COMMENT/OPER,NO,Full Screen=YES,Auto-Continue=NO,
"ユーザーのV1 変数は" + V1
```

コメント色の変更

コメントの詳細を目立たせることができます。コメントの色を変更してこれを行うことができます。

- 編集ウィンドウにそれらを変更するために、「編集ウィンドウの配色を定義」を参照してください。
- レポートウィンドウに表示されるコメントの色を変更するには
TextReportObject レポートテンプレートエディタの色プロパティを変更します。
。



レポートでコメントの色を変更する別の方法はコメントテキストの前に以下の特別なプレフィックスを直接挿入することです。

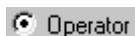
~~#

#は01、02、03、または04を表します。これらは、それぞれマーク付き、マークなし、ステップモード、またはエラーの色を表します。これらの色の詳細については、[ウィンドウの色の編集]ダイアログボックスを参照してください。

したがって、エラーに割り当てられたテキストの色でコメントテキストを表示するには、コマンドを次のようにする必要があります：

COMMENT/rept, ~~04 一部のコメントテキスト

オペレータ



ソフトウェアがコメント・コマンドを実行する場合、オペレータオプションは、オペレータにコメント文字列を表示します。

演算子 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. コメントのダイアログボックスで、オペレータのオプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです：

COMMENT/OPER,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-CONTINUE=TOG3,
comment text

プログラマーのコメント挿入

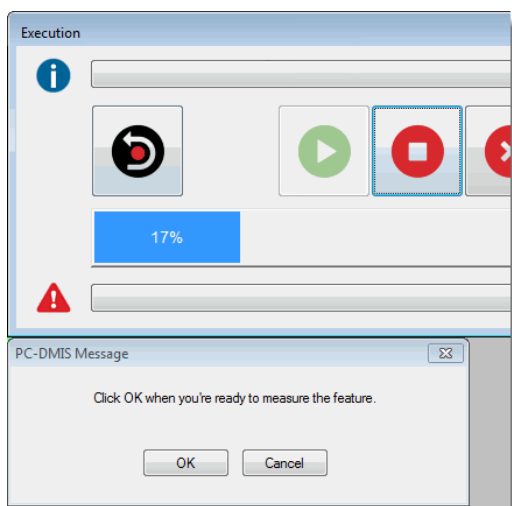
TOG1 - このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 - このYES/NOフィールドはコメントが表示されて全体のスキャンを塗りつぶすかどうかを定義できます。

TOG3 - この[はい/いいえ]フィールドはコメントがカウントダウンタイマを使用するかどうかを決定し、タイマーが0になると自動的に実行を継続します。カウントダウンタイマーが0になると、[OK] ボタンをクリックしたかのように、PC-DMISが続行します。

機能の仕方

PC-DMIS が測定ルーチンを実行するとき、メッセージボックスが **[実行]** ダイアログボックスの真下に適切なコメントを表示します。



[PC-DMIS メッセージ] ダイアログボックス

PC-DMIS ではこのメッセージを編集することはできません。[OK] ボタンをクリックして実行を続行します。測定ルーチン実行を取り消すには [取り消し] をクリックします。

レポート



レポートオプションは、検査レポートにテキストを送信します。

レポート オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. コメントのダイアログボックスで、レポートのオプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

PC-DMISの測定ルーチンを実行する時には、これらのメッセージは表示されません。しかし、PC-DMISは、印刷時に、これらのコメントをインスペクション レポートに送付します。

このオプション用の編集ウィンドウ のコマンドラインは、以下のようです：

COMMENT/REPT,

コメント テキスト



コンテンツを視覚的に分離するには、次のように2番目のコメント行としてダッシュ（または他の文字）を含めることができます。

```
COMMENT/REPT,
```

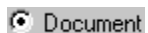
検査レポートのコメント

```
COMMENT/REPT,
```

上記は、レポートでは次のようになります：

検査レポートのコメント

ドキュメント



ドキュメントオプションはテキストを内部測定ルーチンに追加します。そのただ一つの使用はプログラマノートを格納することです。それは、検査レポートに現われません（もし、[レポート中の表示](#)をマークしなければ）。また、実行された時、それは何も表示しません。

ドキュメントオプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. [コメント]ダイアログボックスの[コメントの種類]エリアから、[ドキュメント]オプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。

5. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:



\$\$ TOG1,
コメントのテキストを編集してください！

TOG1 - この「はい/いいえ」フィールドは検査レポートでコメントが表示されるかどうかを指定できます。



測定ルーチンが（おそらくPC-DMISの新バージョンから）サポートされないコマンドを含んでいる場合、ユーザーが測定プログラムを開いたとき、PC-DMISはそれらのコマンドをこのコメントタイプに変換します。詳しくは「基本的なファイルオプションの使用」の章にある「名前を付けて保存」を参照して下さい。

入力



インプットオプションは「**演算子**」に類似しており、これを用いると、測定ルーチンが実行されるときにテキストを表示します。以前に入力されたテキストに伴うメッセージボックスの表示に加えて、コメントボックスをも表示します。これにより、インスペクションレポートに記入する、数値情報を入力することができます。

このオプションは、測定ルーチンの実行中に、パーツ番号、または、通し番号を入力する場合、大変役に立ちます。

入力オプションを使用するには、次の手順に従います：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. コメントのダイアログボックスで、入力のオプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。

プログラマーのコメント挿入

5. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:



```
comment ID=COMMENT/INPUT,TOG1,Full Screen=TOG2,  
comment text
```

TOG1 = このはいいいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 = このはいいいえ フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスクリーンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

入力がコマンドの左側に指定された変数に割り当てられます。この変数は文字列型に強制的に変換されます。その後、<COMMENT ID>.INPUTというシンタックスを用いることにより、この変数は式が許容されるのであればどこでも、使用が可能です。例えば、コメントIDがC1の場合、以下のようにこの変数を別の変数へ引き渡すことが可能です:

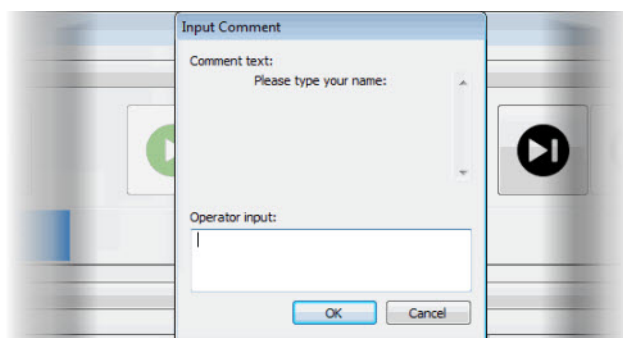
```
C1 = COMMENT/INPUT,NO,Full Screen=NO,
```



```
"Please type your name:"  
ASSIGN/V1=C1.INPUT
```

機能の仕方

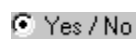
実行中に、このメッセージボックスは必要な番号(シリアル番号など)を入力するプロンプトを表示し、その後、検査レポートにこの値が表示されます。このプロンプトは実行ダイアログボックスのトップに表示されます:



[コメント入力] ダイアログボックス

作業者が自分のテキストを入力して、**OK**をクリックすると、PC-DMISはコメント変数にそれを格納します。変数は、ID.INPUT（デフォルトで変数のIDはC1（最初の入力コメント）、C2（2番目の入力コメント）などです）。作業者が**[キャンセル]**をクリックした場合、実行が停止されます。

はい/いいえ



はい/いいえオプションは**オペレータ**オプションと同様に機能し、これによってユーザーは測定プログラム実行時にテキストを表示することができます。さらに、はい、いいえおよび取り消しボタンが、**PC-DMISメッセージ**ダイアログボックスの下部に表示され、これによってオペレータは簡単な質問に対して「はい」または「いいえ」で答えることができます。

[はい/いいえ] オプションを使用するには、以下の手順に従います：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. コメントのダイアログボックスから、はい/いいえのオプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [PC-DMISメッセージ]ダイアログボックスで[はい]または[いいえ]をクリックせず、設定した時間の経過後に測定ルーチンが自動実行するようにしたい場合は、[実行を自動継続]チェックボックスをオンにします。ここで、[実行遅延（秒）]ボ

プログラマーのコメント挿入

ックスに遅延の秒数を入力できます。詳しくは、「自動継続の実行」を参照してください。

6. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
comment ID = COMMENT/YESNO,TOG1,FULL SCREEN=TOG2,AUTO-  
CONTINUE=TOG3,
```

コメント テキスト

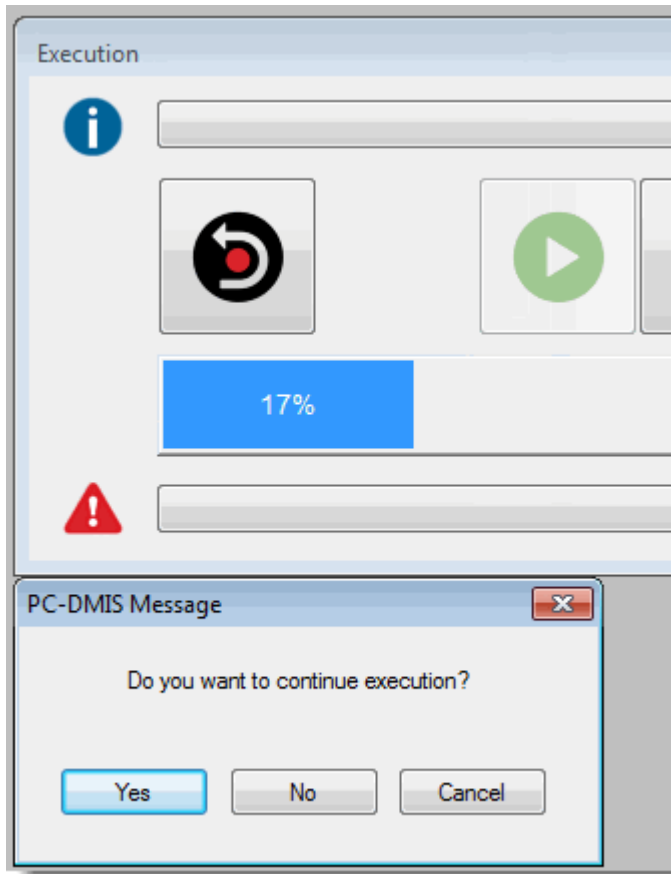
TOG1 = このYES/NO フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

TOG2 = このYES/NO フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスクリーンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

TOG3 - この[はい/いいえ]フィールドはコメントがカウントダウンタイマを使用するかどうかを決定し、タイマーが0になると自動的に実行を継続します。時間が0になるまでにオペレータがボタンをクリックしないと、オペレータがはいボタンをクリックしたとみなして測定プログラムの実行が継続します。

機能の仕方

実行中に、**PC-DMIS メッセージ ダイアログ ボックス**が**実行ダイアログボックス**の下に表示されます。これによって、下記のようにオペレータは**はい**、**いいえ**または**取り消し**をクリックすることができます。



ボタンの付いた[PC-DMISメッセージ] ダイアログボックス。

オペレータがボタンをクリックするまで実行が一時停止します。答えは変数に格納されます。変数がC1.INPUTです。

オペレーターが選択した答えには、そのコメントのIDを伴う式を用いて、アクセスすることができます。

例 1: コメントにC1のIDがあり、オペレータがはいボタンをクリックすると、式「C1.INPUT」には値「はい」が入ります。オペレータがいいえボタンをクリックすると、式「C1.INPUT」には値「いいえ」が入ります。このオプションは「はい」または「いいえ」文字列の応答によって分岐またはループさせたいユーザーには有用です。

例 2: コメントにC1のIDがあり、オペレータがはいボタンをクリックすると、式「C1.INPUTVALUE」には値 1 が入ります。オペレータがいいえボタンをクリックすると、式「C1.INPUTVALUE」には値2が入ります。このオプションは整数1または2応答によって分岐またはループさせたいユーザーには有用です。

プログラマーのコメント挿入

どの場合にも、オペレータが[キャンセル]をクリックすると測定ルーチンの実行がキャンセルされます。



INPUT式を使って「YES / NO」コメントの値をテストするために条件分岐ステートメントを使用する場合、そのテストは大文字の「YES」値または、「NO」値を検索します。小文字の「yes」または「no」では機能しません。(測定ルーチンの分岐について詳しくは、「フローコントロールを使用した分岐」の章を参照してください。)

測定値

Readouts

測定値 オプションはプローブ測定値ウィンドウの下部にコメントテキストを表示します。この作業のため、**プローブ測定値セットアップ**ダイアログ ボックスに**プロンプト履歴を表示** チェックボックスを選択する必要があります。

測定値 オプションを使用するには：

1. ユーザはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. コメントのダイアログボックスから、入力のオプションを選択します。
4. [コメントテキスト]ボックスに、コメントテキストを入力します。
5. [OK]ボタンをクリックして、ダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです：

```
COMMENT/READOUTS,TOG1,  
comment text
```

TOG1 = このはいいいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

プローブ計測値の設定の詳細情報について、「カスタム設定」章の「プローブ計測値ウィンドウの設定」を参照してください。

プローブ測定値ウィンドウ上の使用に関する説明については、「その他のウィンドウ、エディタ、ツール等の使用」の章にある「プローブ測定値ウィンドウの使用」を参照して下さい。

レポートの表示

☒ Display On Report

このチェックボックスはレポートウィンドウで生成した最終報告書にコメントと任意の送信されたテキスト(例えば、オペレータのコメントの使用など)が表示されるかどうかを定義します。選択した場合、レポートにコメントを表示するかどうかを指定するコメントのYES/NO トグルフィールドははいに設定されます。

レポート コマンドのタイプを選択する場合、このチェックボックスは隠されます。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

```
COMMENT/TOG1,TOG2,  
comment text
```

TOG1 = レポート以外の任意のコメントタイプ。

TOG2 = TOG2 = このはいいいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

自動継続の実行

☐ Auto-continue execution
Execution delay (in seconds)

自動的に実行を継続: このチェックボックスでは、PC-DMISが実行中に表示するコメントが指定秒数経過後に閉じるかどうかを定義できます。デフォルトでは、このチェックボックスは選択されません。

コンピュータから離れたところで測定装置を使用しており、一定時間後に実行が継続されることを望む場合、オペレータにとってこれは便利な機能です。このチェックボックスを選択すると、**実行遅延 (秒)**ボックスが使用可能になります。

実行遅延 (秒): このボックスではPC-DMISがコメントを表示している間、何秒間実行を遅延するかを定義できます。1~600秒の任意秒数を指定できます。

- 動画ファイルで実行遅延を使用し、動画の再生時間が遅延時間を超える場合、PC-DMISは続行する前に動画の再生が終了するのを待機します。

プログラマーのコメント挿入

- 動画時間が指定した実行遅延時間より短い場合、実行遅延がゼロへカウントダウンするまでコメントが表示されたままになります。

実行中にソフトウェアは、括弧内のオペレータコメントタイプのOKボタンにカウントダウンタイマーを表示します。



Yes/Noコメントタイプの場合、これはYesボタンに表示されます。

タイマーがゼロになったら：

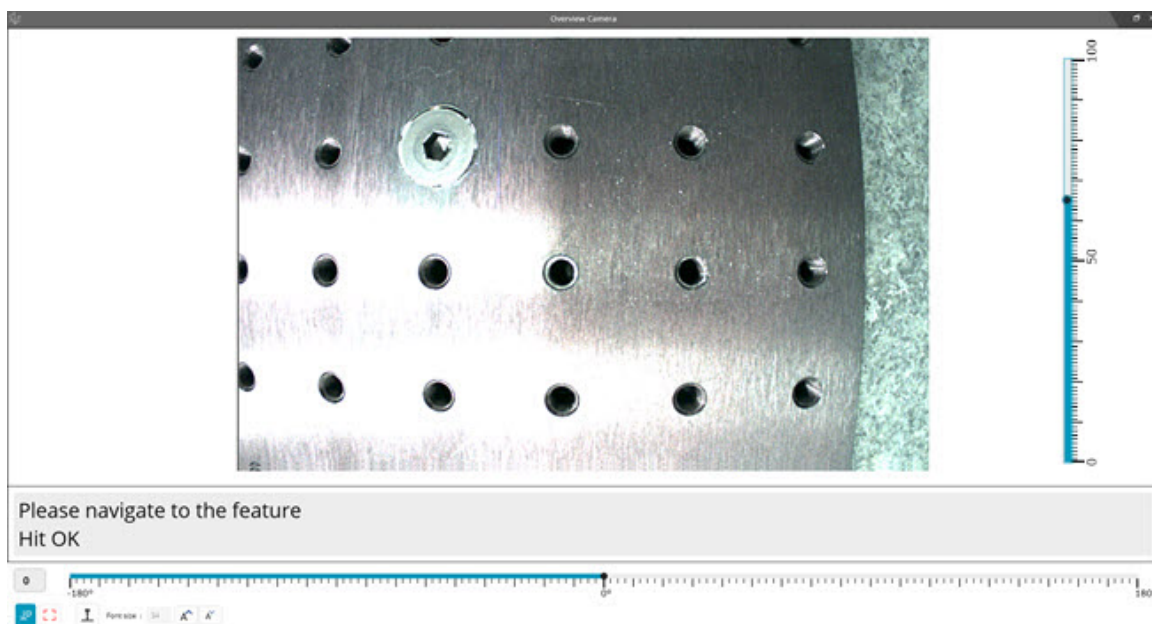
- オペレータコメントでは、オペレータがOKをクリックしたかのように実行が継続されます。
- はい/いいえコメントでは、オペレータがはいをクリックしたかのように実行が継続されます。

OVC



[OVC] オプションは [概観カメラ] ダイアログボックスを表示し、ユーザーはこれを使ってコメントを入力できます。

[OVC] オプションを使用するには、以下の手順に従います。

1. ユーザーはコメントのコマンドを挿入する編集ウィンドウ内にカーソルを置きます。
2. 「挿入 | レポートコマンド | コメント」メニューオプションを選択して、コメントダイアログボックスを開き、。
3. [コメント] ダイアログボックスで [OVC] チェックボックスをオンにして、[概観カメラ] ダイアログボックスを開きます。



[概観カメラ] ダイアログボックス

4. ボックスにオペレータのコメントを入力します。  および  アイコンを使用して、フォントサイズをそれぞれ拡大および縮小することができます。
5. 「X」をクリックして [概観カメラ] ダイアログボックスを閉じます。
6. [コメント] ダイアログボックスで、[OK] ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じ、コメントを挿入します。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

コメント/オペレータ, TOG1, 全画面=TOG2, 自動継続=TOG3, OVC=TOG4,
コメントテキスト

- **TOG1** - これは [はい/いいえ] フィールドです。これを [はい] に設定すると PC-DMIS はコメントを検査レポートに挿入します。そうでない場合、コメントはレポートに挿入されません。
- **TOG2** - これは [はい/いいえ] フィールドです。これを [はい] に設定すると PC-DMIS は全画面でコメントを表示します。そうでない場合、コメントは全画面では表示されません。
- **TOG3** - これは [はい/いいえ] フィールドです。これを [はい] に設定すると、コメントはカウントダウンタイマーを使用し、PC-DMIS はタイマーが 0 になると自動的に実行を続行します。0 で PC-DMIS はユーザーが

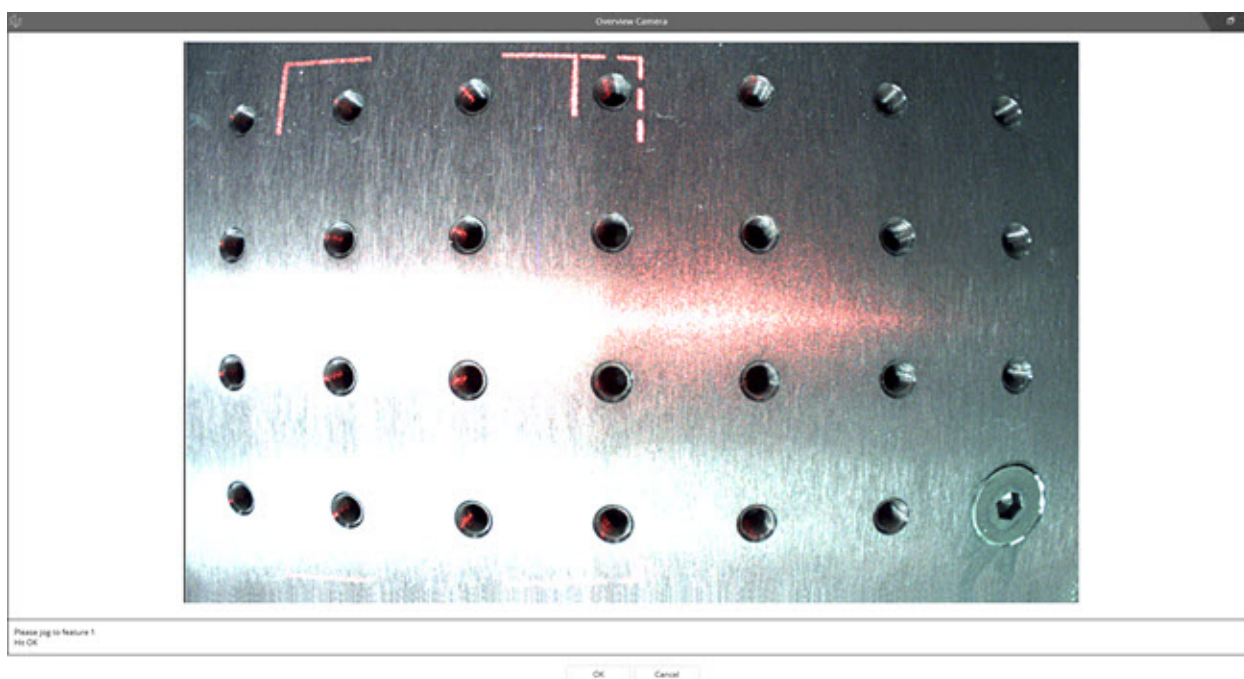
プログラマーのコメント挿入

[OK] ボタンをクリックしたかのように動作し、測定ルーチンの実行を続行します。そうでない場合、カウントダウンタイマーは使用されません。

- **TOG4** - これは [はい/いいえ] フィールドです。これを [はい] に設定すると、PC-DMIS は測定ルーチン実行中に OVC コメントを表示します。そうでない場合、測定ルーチン実行中、OVC コメントは表示されません。

機能の仕方

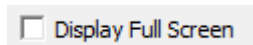
PC-DMIS が測定ルーチンを実行するとき、メッセージボックスが [実行] ダイアログボックスの真下に関連するコメントを表示します。



[PC-DMIS メッセージ] ダイアログボックス

PC-DMIS ではこのメッセージを編集することはできません。測定ルーチンの実行を継続するには、[OK] をクリックします。[取り消し] をクリックして測定ルーチンの実行を取り消します。

全画面表示



このチェックボックスは、コマンドが実行されれば全画面を満たす拡大サイズにコメントテキストを表示するかどうかを判定します。これは 入力、はい/いいえ、また 演算子

コメントで作業します。ユーザが他のコメント・タイプを選択すれば、PC-DMISはこのチェックボックスを無効にします。同様に、このチェックボックスがマークされた場合、表示されるコメント内の特定のメディア（画像や映画）を表示するオプションがあります。その場合には、**メディアのインポート**と**メディアの移動**が有効になります。それらのボタンの情報については、「メディアのインポート」か、または「メディアを削除」を参照してください。

このオプション用の編集ウィンドウのコマンドラインは、以下のようです:

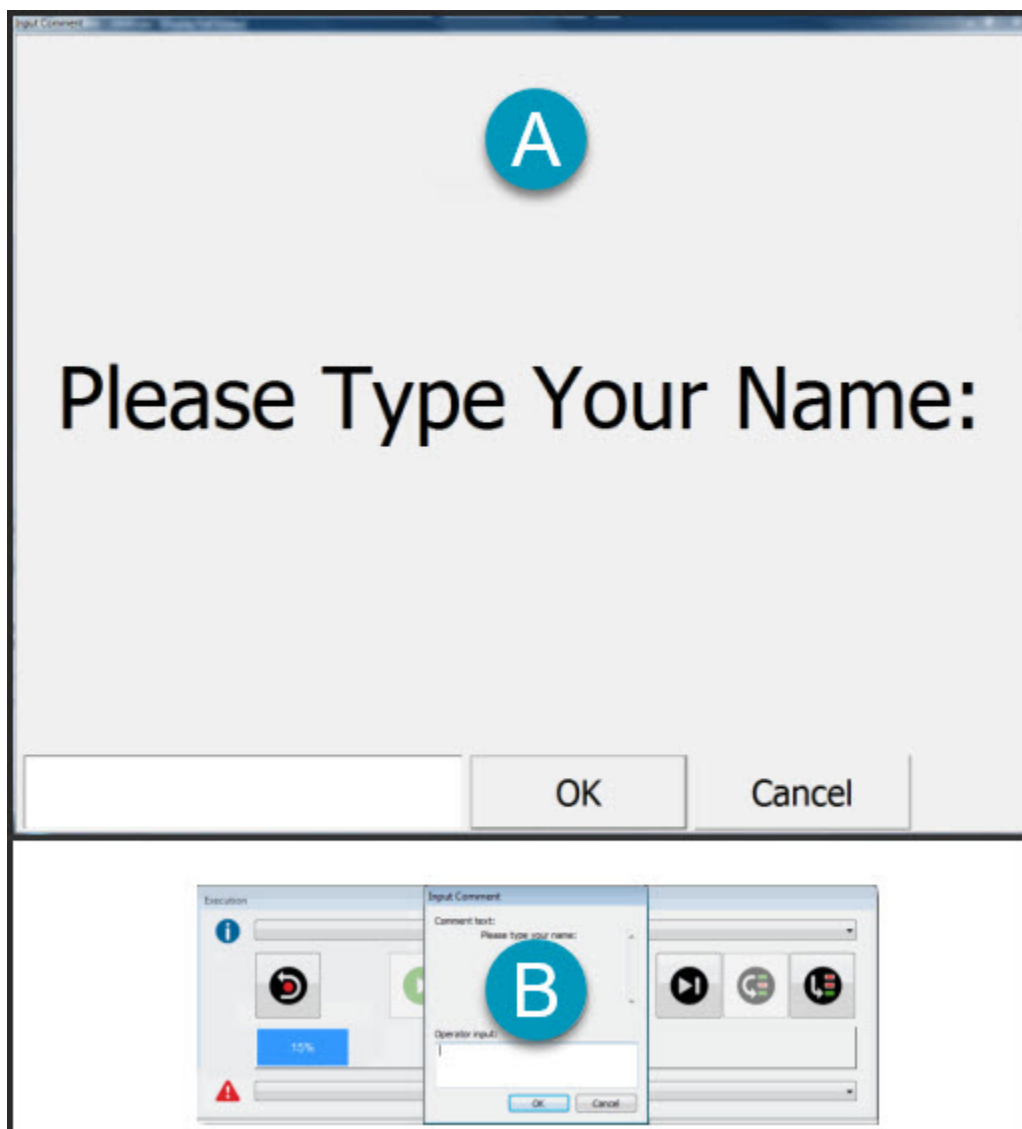
```
COMMENT/TOG1,TOG2,Full Screen=TOG3,  
comment text
```

TOG1 = INPUT, YESNO またはOPERATOR コマンドです。

TOG2 = このはい/いいえ フィールドは検査レポートにこのコマンドが表示されるかどうかを指定できます。

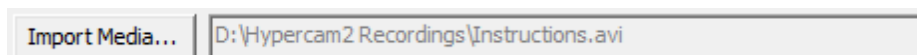
TOG3 = このはい/いいえ フィールドは表示された場合にはコマンドが全体のスクリーンを塗りつぶすかどうかを指定できます。

プログラマーのコメント挿入



フルスクリーン入力コメント（A）と通常サイズのコメント（B）の例。

メディアのインポート



このボタンをインポートするには、最初に**全画面表示**チェックボックスをマークする必要があります。

[メディアのインポート]ボタンを使用すると、有効なメディアファイルを参照し、そのファイルを測定ルーチンにインポートできます。測定ルーチンがそのコメントを実行す

ると、PC-DMISはそれを全画面コメント内に表示します。**OK** をクリックする場合、このファイルは測定ルーチンにインポートされてまた測定ルーチンのコンポーネントになります。これにより、測定ルーチンを別のコンピュータシステムまたはディレクトリに移動するときにイメージファイルとビデオファイルを移動するのを忘れる必要がなくなります。しかし、ユーザが含めるように選択したメディア・ファイルのタイプと数に応じて、それは測定ルーチンサイズを全く大きくすることもできます。

選択されたファイルがボックスに**メディアのインポート** ボタンの右側に表示します。

有効なイメージファイルの種類は以下のようです：

- .bmp
- .png
- .jpg

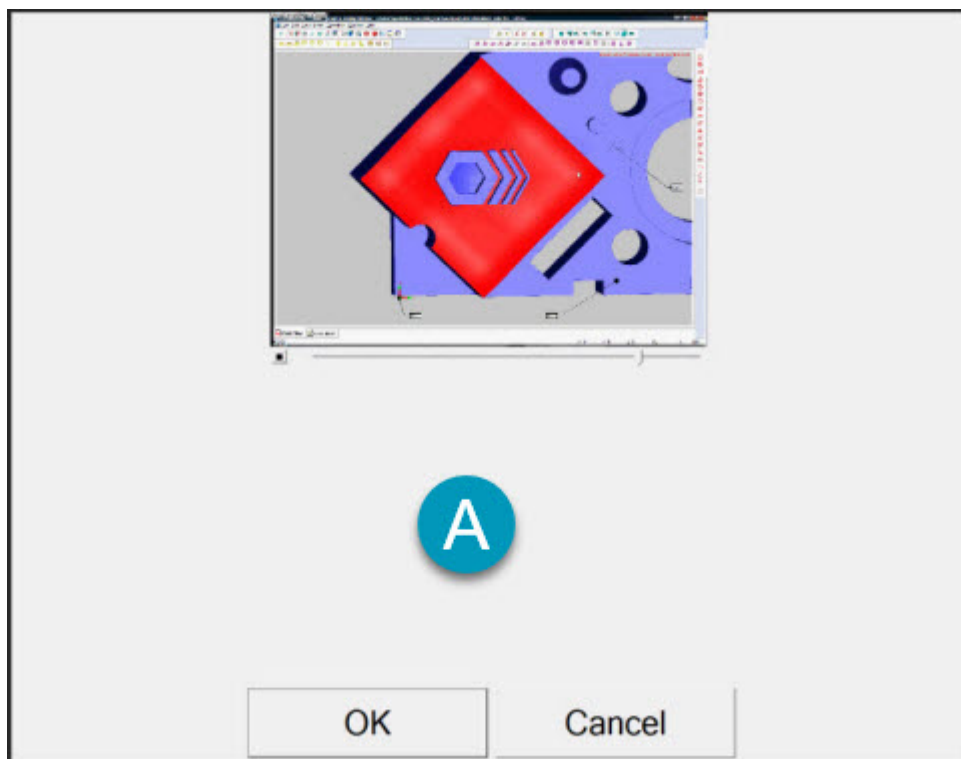
有効な移動ファイルの種類は以下のようです：

- .avi

メディアコンテナについて

PC-DMISはメディアファイルを含むコメントを実行する場合、ひとつのコメントがメディアファイルを含むコメントを実行し、それは「コンテナ」というフルスクリーンのコメント内の部分に適當することに表示されたメディアをサイズします。これは、PC-DMISがイメージまたはムービーのサイズをコンテナ内に収めることを意味します。

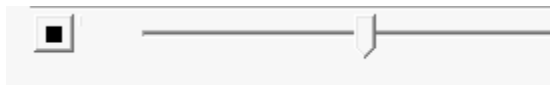
プログラマーのコメント挿入



このサイズの画像がフルスクリーンオペレータのコメントを表示します。コメントの上部にあるメディアアイコンがコンテナ内に適用した映画のサイズが含まれます。

(A) - 上のビデオに示されているように、パートの上部に4回ヒットします。

コンテナ下の水平スライダがロードムービーファイルの現在のプロセスを表示します。このスライドをドラッグしてムービーのタイムラインによってさまざまなスポットにジャンプします。



■ このアイコンは再生からムービーファイルを停止します。

▶ このアイコンが停止されたムービーファイルを再生します。

サポートされている AVI コーデック

動画コーデックは動画ファイルを圧縮および解凍するアルゴリズムです。実行中にオペレータコメントにおいて未サポートのコーデックで.avi 動画ファイルを使おうとすると、「ドライバーがインストールされていません」または「指定されたファイルを指定された MCI デバイスで再生できません」という「MCI エラーメッセージ」を受ける場合があります。

これらのエラーのいずれかが発生した場合、ユーザーの動画フォーマットとコーデックを確認してください。

Microsoft Video 1 (MS-CRAM) コーデックで作成または圧縮された.avi ファイルを使用する必要があります。

- 動画のコーデックを確認するには、無料のオープンソース VLC メディアプレーヤーを <https://www.videolan.org/vlc/> から使用することができます。
- Microsoft Video 1 コーデックで動画を作成するには、下記のようなオプションを検討してみることができます。
 - 古い無料で無登録の HyperCam 2 ソフトウェアを使用し、Microsoft Video 1 コーデック で録画します。
 - Microsoft Video 1 コーデック での録画またはエクスポートをサポートする新しい録画アプリケーションを使用します。例えば、TechSmith Camtasia 2021 では、Microsoft Video 1 コーデックで.mp4 ファイルなど、最新の動画フォーマットをインポートして、そのファイルを.avi としてエクスポートできます。

メディアの削除

Remove Media

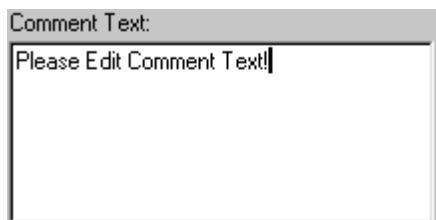


全画面表示 チェックボックスを一回目にマークする場合、これは有効になります。

メディアを移動 ボタンがコメントからメディアを移動します。これが測定ルーチンからメディアを移動したら、Windowsファイルシステムの制限の原因を注意してメディアをインポートする前にそれが本来です。これらのケースでは、**ファイル|名前を付けて保存** をしてその原件ファイルサイズで測定ルーチンを得るために異なるファイル名に測定ルーチンを保存します。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

コメント テキスト



[コメントテキスト] ボックスには、表示したいテキストが以下に示すようなコメント形式オプションで含まれています：

- オペレータ
- レポート
- 入力
- 文書
- はい/いいえ
- 読み取り

ASCII文字の挿入



ASCII 文字ボタン

[コメント](#)のダイアログボックス上のこれらのボタンは、[\[コメントテキスト\]](#)ボックスにいくつかのよく使用されるASCII文字を挿入します。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

ユーザはこれらのレポートを測定ルーチンに埋め込むことができます：

- レガシーレポート(ハイパービュー レポート)
- レポート テンプレート
- カスタムレポート
- ラベル テンプレート

PC-DMISが埋め込まれたコードを実行すると、それはレポートまたはテンプレートを起動します。その後、それを印刷したり、表示したり、および埋め込まれた項目からか、またはそこへ値を渡すことができます。



レガシーレポートはHyperViewレポートエディタを使用する旧式のレポートです。PC-DMISの3.0、3.2、3.25、3.5、または3.7バージョンがこのエディタを使用していました。これらのレポートの詳細については、「レガシー（HyperView）レポートの操作」を参照してください。

レポートまたはテンプレートを埋め込むには：

1. 編集ウィンドウがコマンドコードにあるのを確認してください。
2. **[挿入 | レポート コマンド]**を選択して、次のメニュー項目より目的のものを選択します。
 - カスタムレポート
 - レポートテンプレート
 - レガシー レポート
 - レポートラベル

ダイアログ ボックスが表示してレポートまたはテンプレートを選択できます。

3. 測定ルーチンに埋め込みたいレポートとテンプレートを選択してください。
4. **開く** ボタンをクリックしてこのコマンドを挿入してください。

PC-DMIS は次のコマンドの一つをカーソル位置の編集ウィンドウに挿入します：

- `REPORT/CUSTOM`
- `REPORT/TEMPLATE`
- `REPORT/LEGACY`
- `REPORT/LABEL`

REPORT コマンド

レポートコマンドオブジェクトは編集ウィンドウの `REPORT` コマンドで識別されます。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

REPORT コマンド構文

REPORTコマンドには編集ウィンドウのコマンドモードで次の構文があります：



```
<ID>          =REPORT/<TOG1>, FILENAME= <PATHWAY>,  
AUTOPRINT=<TOG2>, INLINE REPORT=<TOG3>,  
Section=<NUM1>,REPORTMODE=<MODE>  
PARAM/=  
ENDREPORT/
```

<ID>

REPORT コマンドのIDです。

REPORT/<TOG1>

これはREPORTコマンドのタイプを変更します。これは、カスタム、レガシィ、テンプレートまたはラベルであることができます。

FILENAME=<PATHWAY>

これはレポートまたはテンプレートがロードにすることを定義します。
<PATHWAY> は目的のファイルを指す完全なファイル名のパスです。ユーザーがレポートまたはテンプレートの名前のみを使用する場合、PC-DMISはデフォルトレポートディレクトリーの中を検索します。

AUTOPRINT =<TOG2>

<TOG2>は PRINT、PDF および NO の間で切り替えることができます。それはREPORT/LEGACYコマンドにのみ適用されます。

AUTOPRINT=PRINTに設定すると、ハイパービューレポートが読み込まれ実行された後、デフォルトのプリンターに印刷されます。レポートはプリントジョブがスプールされた直後に閉じられ、測定ルーチンの実行が再開します。

AUTOPRINT=PDF に設定すると、ハイパービューレポートはPDF (Portable Document Format) ファイルに印刷されます。次のルールが適用されます：

- 生成されたPDFファイルはレポートまたはテンプレートファイルベース名に数字のインデックスと拡張子が付いたものになります。

- 作成されたファイルは同じディレクトリにレポートファイルとして配置されます。
- 生成されたファイル名が既存のファイルと同じ場合、一意のファイル名になるまでインデックスの値が自動的に大きくなります。

AUTOPRINT=NO に設定するとこのコマンドを実行中は何も印刷しません。

INLINE REPORT=<TOG3>

これは AUTOPRINT が PDF に設定されたレガシー (ハイパービュー) レポートのみで使用されます。ハイパービューレポート情報を、レポートウィンドウから生成されたその他のデータとともにPDF出力形式で行に表示するかどうかを決定します。

<TOG3> はONとOFFを切り替えます。

ON - このコマンドが実行され、出力設定ダイアログボックスが上書き、自動、または追加オプションによってPDFを自動生成すると、指定されたレガシー(ハイパービュー)レポートからのデータが、その他の通常のレポート出力と並んでPDFに表示されます。

プロンプトオプションが使用され、これがONに設定されている場合、複数のPDFが生成され、1つはハイパービューレポート用に、必要に応じて残りのレポートウィンドウの内容を含めるよう追加のPDFが生成されます。

OFF - ハイパービューレポートからのデータが、ハイパービューレポートの名前に基づいてPDFファイルに現れます。これはレポート印刷オプションダイアログ ボックスから生成されたPDFには含まれません。

このオプションは、ハイパービューコマンドのAUTOPRINTオプションより優先される点にご注意ください。

旧式のハイパービューレポートについての詳細は、「レガシー (ハイパービュー) レポートを使用した操作」を参照してください。

Section=<NUM>

<NUM>はレポートまたはテンプレートが挿入されるセクションを定義します。このアイテムはテンプレートにラベルを付けるために当てはまりません。

[-1]またはデフォルト テンプレートのセクション数より多い値が入力された場合、レポートの最後に挿入されます。

測定ルーチンにレポートまたはテンプレートを埋め込みます。

REPORTMODE=<MODE>

測定ルーチンが実行され、デフォルトのレポートテンプレートが指定される場合、それはテンプレートデフォルトのレポートを使用してレポートの生成することを開始します。一旦REPORTコマンドに達したら、作成は指定されたレポートのモードに基づいて変更します：

<MODE> - これはSWITCH またはINSERTであることができます。このモードは単にREPORT/TEMPLATEコマンドに当てはまります。

SWITCH- 別の報告コマンドが検出されるまでまたは測定ルーチンを終了する時まで、これはレポートテンプレートを切り替えてこのコマンドの1つを使用します。

INSERT - これは以前に実行されたコマンドのレポートデータを生成します。それはテンプレートをこのコマンドに使用します。レポートコマンドが終了した時には、PC-DMISはテンプレートのデフォルトのレポートを使用してレポートデータの残りの部分を生成します。

PARAM/

PARAM/ オプションで、PC-DMIS式をレポートまたはレポート テンプレートの変数またはプロパティをマップできます。このオプションはREPORT/LABELコマンドに当てはまりません。

PARAM/ オプションの構文は:

PARAM/ {オブジェクトまたは変数名}={PC-DMISの式}

レポートに NumBoltHoles という名前のグローバル変数がある場合、以下のPARAM/ オプションは PC-DMIS の式を NumBoltHoles にマップします:
PARAM/NumBoltHoles=360.0/angle

PARAM/NumBoltHoles=360.0/angle

エディタで変数を変更するとPC-DMISの変数も変更されます。

次のPARAM /オプションを使用すると、NumBoltHoles変数はnumBolts変数と等しいに設定されます。HyperView 変数 NumBoltHoles に対する HyperView レポート内部での任意の変更は、以下のように PC-DMIS 変数 numBolts に反映されます：

PARAM/NumBoltHoles=numBolts



実行後、レポートテンプレートまたはHyperViewレポートにパラメータを渡すことによって変更したすべてのオブジェクトは、何らかの方法でレポートを再描画または変更すると実行前の内容に戻ります。これは、パラメータをテンプレートまたはレポートに引き渡した結果を保持したい場合、レポート変更前に印刷しなければならないことを意味します。これを行うにはAUTOPRINTパラメータを使用するか、レポートウィンドウから直接印刷します。

詳しくはPARAMコマンドを使用して、PC-DMISの式をオブジェクトプロパティへマッピングするを参照してください。



REPORT/CUSTOMコマンドでF9を押して、カスタムレポートエディタでカスタムレポートを開くことができます。

REPORT/TEMPLATE レポートの生成

このコマンドに到達するまでは、通常通りデフォルトのレポートが生成されます。このコマンドが実行されると、特別なテンプレートを使用して、現在のレポート内の新しいセクションに全ての測定ルーチンのコマンドとは切り離されたレポートが作成されます。PC-DMISが新しいレポートセクションを作成した後、その点から前方元のレポートにそれは前のレポートに切り替わり、コマンドを生成するのを継続します。

PARAMコマンドを使用して、PC-DMISの式をオブジェクトプロパティへマッピングすること

PC-DMISの式は、編集ウィンドウのPARAM/ コマンドを使用してプロパティ オブジェクトにマッピングすることが可能です。オブジェクトのプロパティをマッピングするためのPC-DMIS式の構文は次の通りです:

PARAM/{object code}.{property name}={PC-DMIS expression}




以下のPARAM/ オプションはオブジェクトのBorderStyleプロパティを変更します、Text1: `PARAM/Text1.BorderStyle=1`

外部オブジェクトの挿入

レポートに外部オブジェクトを追加するには、**挿入|レポートコマンド|外部オブジェクト**メニュー項目を選択します。詳細については、「外部要素の追加」章を参照してください。

印刷コマンドの挿入

PC-DMISは、**PRINT/REPORT**コマンドを実行する場合、測定ルーチンのその点までの測定結果を、定義された出力先（プリンターまたはファイル）に送信します。PC-DMISがこのコマンドを実行した後に、それがレポートウィンドウの内容をクリアしてまた唯一の測定結果のみはレポートウィンドウに表示されます。しかし、常にレポートツールバーのレポートモードを表示アイコンをクリックしてレポートを完全表示できます。

[編集]ウィンドウに**PRINT/REPORT**コマンドを挿入するには、次の手順を実行します：

1. 編集ウィンドウが表示されないと、**表示|編集ウィンドウ**を選択して編集ウィンドウを表示します。
2. **[表示|コマンドモード]**を選択して、編集ウィンドウをコマンドモードにします。
3. **挿入|レポートコマンド|印刷コマンド**メニューオプションを選択します(または目的の場所で**PRINT**を入力してTABを押します)。PC-DMISは設定できるそれぞれのオプションを備えた**PRINT/REPORT**コマンドを挿入します。
4. コマンドを設定するには、コマンドでF9キーを押し、**出力設定ダイアログ**ボックスを使用します。詳細は、「**PRINT/REPORT**コマンドの編集」を参照してください。

PRINT/REPORTコマンドは測定ルーチンからのレポートの印刷のコントロールに使用されます。PC-DMISがこのコマンドを実行する場合、報告書は生成され、指定された出力目的地に送られます。

PC-DMISが**PRINT/REPORT**コマンドの後でレポートヘッダを処理する方法をコントロールするには、「測定結果のレポート」章の「テキストレポートの編集」トピックにおける「印刷コマンドの後のヘッダ」エリアを参照してください。

関連トピック：

ループでの印刷コマンドの使用

PRINT/REPORTコマンド用シンタックスの理解

コマンドのシンタックスは以下のようになります:



```
PRINT/REPORT, EXEC MODE=END, $

TO_FILE=OFF, TOG1, AUTO, OUTPUT_FORMAT/TOG2, $

RESET_REPORT=YES, AUTO OPEN=OFF, $

TO_PRINTER=OFF, COPIES=, $

TO_DMIS_REPORT=OFF, FILE_OPTION=TOG3, FILENAME=, $

REPORT_THEORETICALS=ALL, REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS=YES, $

TO_EXCEL=OFF, TOG4, AUTO OPEN=OFF, $

PREVIOUS_RUNS=DELETE_INSTANCES
```

EXEC MODE = DMISとPC-DMISは、レポートデータを異なる方法で管理するので、このオプションを選ぶと、当ソフトウェアが、どのように、いつ、レポートデータをDMIS、及び、PC-DMIS出力ファイルに送付するか、コントロールすることができます。DMISでは、ルーチンが実行される *前に*、最初に、出力ファイル名と他の印刷パラメータの定義が要求されます。一方、PC-DMISは、測定ルーチンが実行された *後まで*、レポートデータの送付先が決められるのを待ちます。このオプションを選ぶと、両方のフォーマットに対応できます。これには、2つの値のうち、**冒頭**、または、**末尾**のいずれかを選択する必要があります。

開始

これは PC-DMIS が測定ルーチンの最後または別の **PRINT/REPORT** コマンドに遭遇するしたとき、PC-DMIS に印刷を開始するように指示します。DMIS ファイルをインポートする場合、そのファイルは印刷レポートコマンドを有し、初期値として**START**を使用します。

END

これはこの**PRINT/REPORT**コマンドまで既に実行されたすべてを印刷するよう PC-DMIS に指示します。レポート印刷コマンドを有する DMIS ファイ

ルをインポートしないが、**PRINT/REPORT**コマンドをPC-DMIS 内から挿入する場合、そのコマンドは**END**を初期値として持ちます。



ユーザーの測定プログラムが複数の**PRINT/REPORT**コマンドを含む場合、PC-DMISはそのいくつかのコマンドを印刷しない場合があることに注意して下さい。例えば、最初の**PRINT/REPORT**コマンドが**END**を使用し、2番目のレポート印刷コマンドが**START**を使用する場合、PC-DMISはその間のすべてを印刷するわけではありません。

また、**PRINT/REPORT**コマンドが **START** を使用しますが、直後のレポート印刷コマンドが**END**を使用する場合、最初の**PRINT/REPORT**コマンドが、印刷バッファを空にするので、2番目の印刷では、何も印刷されません。

TO_FILE= このオプションを使用して印刷されたレポートがファイルに発送されるまたはされない (**ON**) または(**OFF**)のをインジケータします。

TOG1 この値は、印刷出力を.rtf、.pdf、または.txtファイルに送信するときの動作を制御します。利用可能なオプションは **APPEND / OVERWRITE / AUTO / PROMPT**です。選択されるオプションによって、異なる情報が表示される可能性があります。

追加

このオプションを使用して指定したファイル名にレポート情報を追加します。**APPEND** オプションを選択すると、このキーワードの後にファイル名フィールド、例えば、**APPEND=D:\REPORTS\FILE001.RTF**が続きます。フルパスを指定する必要があります。そうしない場合、PC-DMIS は測定ルーチンと同じディレクトリだと推測することに注意してください。また、ファイルが存在しない場合、PC-DMIS は **PRINT/REPORT** コマンドが実行されるときにファイルを作成します。

OVERWRITE

指定されたファイル名にこのオプションを使用してレポート情報を上書きします。**OVERWRITE** オプションを選択すると、このキーワードの後にファイル名フィールド、例えば、**OVERWRITE=D:\REPORTS\FILE001.RTF**が続きます。ファイルが存在しない場合、PC-DMIS は **PRINT/REPORT** コマンドが実行されるときにファイルを作成します。経路を指定しないと、デフ

ォルトで測定ルーチンのフォルダになります。このフィールドにパスが存在しない場合、これを変数名に設定できます（下の例を参照してください）。

自動

このオプションを使用するとPC-DMISは自動的にレポートのファイル名を作成します。**[AUTO]** オプションを選択すると、このキーワードの後に数値フィールド、例えば **AUTO=10** が続きます。PC-DMIS は測定ルーチンの名前を使用して、生成されたファイルに名前を付け、数値インデックス値と .rtf 拡張子をその名前の最後に追加します。また、PC-DMIS は生成されたファイルを測定ルーチンと同じディレクトリに送ります。生成されたファイル名と同じ名前のファイルが存在する場合、**[AUTO]**は一意のファイル名が見つかるまでインデックスの値を増加します。

PROMPT

このオプションを使用すると、**[名前を付けて保存]** ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用してファイル名を入力し、レポート情報を保存する場所を選択することができます。

OUTPUT_FORMAT - このオプションを使用すると、PC-DMIS が出力をテキストファイル (.txt)、リッチテキストフォーマット (.rtf) または PDF (.pdf) ファイルのいずれかに送信するかを決定できます。

TOG2= TOG2 を **RTF**、**PDF**、**TXT** または **PDF3D** に設定することができます。トグル (切り替え) オプションについては、出力設定トピックを参照してください。

RESET_REPORT - このオプションを使用して、PC-DMIS が各 **PRINT/REPORT** コマンドの後でレポートをリセットするかどうかを決定します。

はい

このオプションを使うとレポートバッファが消去され、それが測定ルーチンの最後または別の **PRINT/REPORT** コマンドに遭遇するまで、現在の **PRINT/REPORT** コマンドの後に実行される項目のみが印刷されます。

いいえ

測定ルーチンが **PRINT/REPORT** コマンドに達すると、PC-DMIS は下記のような形でバッファ内のすべてを印刷します：

印刷コマンドの挿入

- 現在の **PRINT/REPORT** コマンドの前に他の **PRINT/REPORT** コマンドがない場合、測定ルーチンの先頭から現在の **PRINT/REPORT** コマンドまで
- はいに設定された最後の **PRINT/REPORT** コマンドから現在の **PRINT/REPORT** コマンドまで
- **PRINT/REPORT** コマンドがすべて **いいえ** に設定されている場合、それらのコマンドのすべてについて測定ルーチンの先頭から現在の **PRINT/REPORT** コマンドまで

AUTO OPEN = このオプションを使用して、**PRINT/REPORT**コマンドの実行後にPC-DMISが生成された.rtf、.pdf、または.txtファイルを開くかどうかを決定します。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

TO_PRINTER= このオプションを使用してレポートをプリンターに発送するかどうか「**(ON)** または**(OFF)**」を示します。

COPIES =この値は、プリンタに送信するには、レポートのコピーの数を決定します。

TO_DMIS_REPORT= このオプションを選択すると、PC-DMISがレポートを**FILENAME**で指定された DMIS出力ファイル (.dmo)に送信するかどうかを決定できます。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

FILENAME= このオプションを使用してDMIS出力ディレクトリの場所とファイル名を指定します。**TO_DMIS_REPORT** を**ON**に設定した場合、PC-DMISは指定したファイルにレポートデータを保存します。例えば、**FILENAME=D:\PCDMISREPORTS\MYDMIS.DMO**であれば、PC-DMISはドライブDのPCDMISREPORTSフォルダーのMYDMIS.dmoファイルに報告書データを保存します。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。パスがない場合は、これを変数名に設定できます。

FILE_OPTION = TOG3 TOG3を DMIS ファイル出力における以下のファイルオプションに設定できます：

追加

これは **FILENAME** で指定される DMIS ファイルの最後にレポートデータを追加します。

OVERWRITE

これは **FILENAME** で指定される DMIS ファイルを最新のレポートデータで上書きします。

INDEX

これは、**FILENAME**で指定したDMISファイル名の後に測定ルーチンの実行値を増加して追加します。例えば、**FILENAME=MYDMIS.DMO**の場合には、次の実行でファイル名が1増えて、mydmis001.dmo、mydmis002.dmo、mydmis003.dmoなどのようになり、これは**AUTO=オプション**に似ています。

REPORT_THEORETICALS= これは、PC-DMISが、DMIS出力ファイル内の理論値をどのようにレポートするか、を指示します。

すべて

PC-DMISは測定値と共にすべての理論値を出力DMISファイルに出力します。

なし

理論値はレポートに追加されません。

IMPORT_SETTINGS

元のDMISファイルで明示的に出力された理論値のみがレポートに出力されます。

REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS= これはwhether or not PC-DMISが出力ファイルに測定した要素と関連付けられている公差一緒にを保持するかどうかを定義します。それははい またはいいえをとります。

はい

DMIS レポートファイルにおいて、PC-DMIS は要素自体に関連する各寸法に対する関連する公差結果の直後に測定結果を書き込みます。要素が公差と関連付けられていない場合、PC-DMISは出力を生成しません。

いいえ

DMIS レポートのファイルにおいて、PC-DMIS は関連する寸法測定の実行後ではなく、まさに要素測定時に測定結果を書き込みます。

TO_EXCEL=これは、PC-DMISがMicrosoft Excelファイルへ出力を送るかどうかが判断します。それは**ON**か**OFF**のいずれかをとります。

ON

この点に対して測定ルーチンにおけるすべての項目のExcelファイルが生成されます。

OFF

この印刷コマンドによって生成される Excel ファイルは存在しません。

Excelの出力オプションを修正するには、このコマンドのF9キーを押して、**Excel**タブのオプションを変更します。



追加の注記:

- これが**ON**に設定されましたが、測定ルーチンの「出力設定」ダイアログボックスは**Excel出力**チェックボックスがクリアされた場合、PC- DMISは、この特定のコマンドのExcelを生成します。
- これが「**OFF**」に設定されますが、測定ルーチンの「出力設定」ダイアログボックスが**Excelの出力**チェックボックスにマークをオンにしていされている場合は、Excelファイルは、実行の最後に生成されます。
- これが**ON**に設定されて、測定ルーチンの**出力の構成**ダイアログボックスの**Excel出力**チェックボックスもマークされている場合は、生成された2つの出力ファイル、それぞれに1つで終わることがあります。この場合、**PRINT/REPORT**コマンドに従う寸法は異なるファイルの中で生成されます。
- ループはexcel出力で支援されます。ループを通して「**PRINT/REPORT**」コマンドを実行し、Excel出力が追加に設定される場合、それは、Excelファイル内の追加のワークシートなどの目次を生成します。
- Excel出力ファイル出力の小数点以下の桁数を変更するには、ユーザはただ**PRINT / REPORT**コマンドの前に**DISPLAYPRECISION**コマンドを挿入することができます。

TOG4 = この値は印刷出力を Excel ファイル (.xls、.xlsx、csv) に送信するときの動作を制御します。トグルオプションの詳細については、上記の同様のTOG1項目を参照してください。

FILENAME= このオプションを使用してExcelファイルの出力ディレクトリの場所とファイル名を指定します。**TO_EXCEL_OUTPUT** を**ON**に設定した場合、PC-DMISは指定されたファイルにレポートデータを保存します。例えば、**FILENAME=D:\PCDMISREPORTS\MYEXCEL.XLS**であれば、PC-DMISはドライブDのPCDMISREPORTSフォルダーのMYEXCEL.xlsファイルに報告書データを保存します。経路を指定しないと、デフォルトで測定ルーチンのフォルダになります。このフィールドにパスがない場合は、これを変数名に設定できます（下の例を参照してください）。

AUTO OPEN = このオプションを使用して、**PRINT/REPORT**コマンドの実行後にPC-DMISが生成されたExcelファイル (.xls, .xlsx, .csv)を開くかどうかを決定します。これは**オン**か、または、**オフ**のいずれかとなるかもしれません。

PREVIOUS_RUNS =これをループ内からの**PRINT/REPORT**コマンドに使用します。要素が、単一の実行中に一度以上測定される場合、この要素の以前の測定データが保存されます。これらのインスタンスを削除（**DELETE_INSTANCES**）または保持（**KEEP_INSTANCES**）することができます。



FILENAMEの変数

この例では、変数 V1 は C1.INPUT に保存されているInputコメントの値を取ります。Excel出力のFILENAMEステートメントは、Excelファイルのフォルダとファイル名に変数V1の値を使用します：

```
C1=COMMENT/INPUT,YES,FULL SCREEN=NO,  
  
Excelレポートのパスとファイル名を入力します：  
  
ASSIGN/V1=C1.INPUT  
  
PRINT/REPORT,EXEC MODE=END,$  
  
TO_FILE=OFF,AUTO=1,AUTO OPEN=OFF,$  
  
TO_PRINTER=OFF,COPIES=1,$  
  
TO_DMIS_REPORT=OFF,FILE_OPTION=INDEX,FILENAME=,$  
  
REPORT_THEORETICALS=NONE,REPORT_FEATURE_WITH_DIMENSIONS=NO,$  
  
TO_EXCEL=ON,OVERWRITE,FILENAME=V1,AUTO OPEN=ON,$  
  
PREVIOUS_RUNS=DELETE_INSTANCES
```

例えば、オペレータが入力コメントに D:\Temp\MyReport.xls と入力した場合、PC-DMIS はそのディレクトリおよびレポート名に Excel データを保存します。

PRINT/REPORTコマンドの編集

出力設定ダイアログボックスでPRINT/REPORTコマンドオプションを編集できます。

1. PRINT/REPORT コマンドラインの上にカーソルを置きます。
2. [F9]を押します。
3. 必要に応じて、変更を行って下さい。
4. [OK]をクリックします。

PC-DMISが、これまでの変更内容に合うよう、そのコマンドを更新します。変更のコマンドテキスト自体に視覚的な表示が常に表示されるとは限りません。

異なる出力構成ダイアログボックスについて

PC-DMISは、次の場所で[出力設定]ダイアログボックスを使用していることに注意してください。

ファイル | 印刷 | レポート ウィンドウの印刷設定から

そのメニューのメイン出力設定ダイアログボックスでは、**PRINT/REPORT**コマンドを挿入または変更しません。代わりに、レポートの全体の印刷デフォルトを制御します。**PRINT/REPORT**コマンドとは異なり、メインダイアログボックスは、測定ルーチンの実行が完了したときの印刷のみに影響します。(ダイアログボックスの様々なオプションの情報に「基本オプションファイルの使用」の「レポートウィンドウの出力及びプリンターオプションの設定」を参照してください。

各**PRINT/REPORT**コマンドについて

これらのコマンドのいずれかでF9キーを押すと、その特定の出力設定ダイアログボックスが開きます。

- ユーザーは**PRINT/REPORT** コマンドを測定プログラムで複数回に使用することができます。
- 各**PRINT/REPORT**コマンドは異なる出力を持つことができます。
- 各**PRINT/REPORT**コマンドは、メイン出力設定ダイアログボックスに含まれる情報の一意のインスタンスです。したがって、メインダイアログボックスから選択されたオプションは、**PRINT/REPORT**コマンドとは関係ありません。

書式供給コマンドの挿入

PC-DMIS は **FORMFEED** コマンドを編集ウィンドウに挿入できます。**FORMFEED** コマンドがマークして実行された場合、このコマンドで、レポートの印刷ページをプリンタから排出されるのをさせます。ファイルに印刷している場合、**FORMFEED** コマンドが影響ありません。

[編集]ウィンドウに**FORMFEED**コマンドを挿入するには、次の手順に従います:

1. 編集ウィンドウを開いて下さい (ビュー | 編集ウィンドウ)。
2. 編集ウィンドウツール バーからコマンド モードアイコンをクリックして、PC-DMIS をコマンドモードに配置します。
3. 挿入 | レポートコマンド | フォームのフィードメニューオプション(または目的の場所で **FORMFEED** を入力してTABを押します)を選択します。PC-DMISは **FORMFEED** コマンドを表示します。

ビューセットの利用


VIEWSET コマンドを使用して、色々なグラフィック表示ウィンドウビュー (ビューセットと呼びます) を作成して保存できます。後で **RECALL/VIEWSET** コマンドを使用してグラフィック表示ウィンドウおよび CAD レポートでビューセットを呼び出して表示できます。

ビューセットには次のものが格納されます：

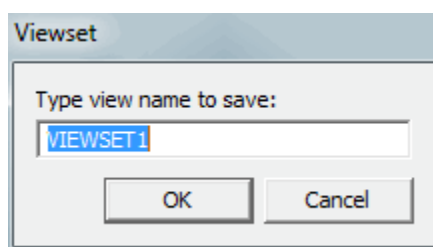
- CADモデルの向き
- CADモデルのシェーディング
- IDラベルの可視性
- IDラベルの位置

ビューセットの作成メニューオプションで、測定ルーチンにビューセットの無制限な数を作成できます。ユーザが望まれているのと同じくらい頻繁に複数のビューセットを思い出すことができます。

ビューセットを作成するには:

1. 必要に応じてビューを設定します。これをするには、編集 | グラフィック表示ウィンドウ | セットアップを表示して、[表示の設定]ダイアログボックスを使用して、グラフィック表示ウィンドウでパートのズームと回転を変更します。これを行う方法については、CAD表示の編集章の「画面ビューの設定」トピックを参照してください。
2. 挿入 | レポート命令 | ビューセットの作成を選択するか、または画像モードツールバーから、ビューを作成 () を選択します。小さな[ビューセット]ダイアログボックスが開き、[保存するビュー名を入力]というプロンプトが表示され

ます。このダイアログボックスがVIEWSET1ではじめるデフォルトの名前を含めると、後続の表示設定の番号を増加します（VIEWSET2、VIEWSETなど）：




デフォルト名を有する[ビューセット] ダイアログボックス。

3. ボックス内に、ご希望の画像用名称をタイプ入力して下さい(19字に制限)。
4. **OK** ボタンをクリックするか、または「Enter」キーを押して下さい。

<NAME>=VIEWSET コマンドを挿入してPC-DMISは現在のビューセットを選択した名と等しいのを設定します、<NAME> が定義されたビューセット名です。

ビューセットを呼び出すには:

作成されたビューセットをリコールするには、以下のいずれかの操作を行います：

- [設定]ツールバーから、[ビュー] 一覧を選択します。
- PC- DMIS PortableのQuickMeasureツールバーから、ビューをリコールを選択します()。
- メニューバーから、「挿入|レポートコマンド|ビューセットをリコール」を選択します。

呼び出すビュー・セットを選択します。PC-DMISは、編集ウィンドウに `RECALL/VIEWSET, <NAME>` コマンドを挿入します。

カーソルが編集ウィンドウ内で `RECALL/VIEWSET, <NAME>` コマンドの上または下にあるとき、PC-DMISはグラフィックス表示ウィンドウに作成されたビューセットを表示します。ここで、<NAME> は定義されたビューセット名です。このコマンドをマークし、実行する場合、PC-DMISは、測定ルーチン実行中にも、グラフィックス表示ウィンドウ内に、保存された画像を表示します。

それに加え、レポート ウィンドウが、CadReportObjectを表示するテンプレートやカスタム レポートを使用している場合、呼び出されたビューセットは、お客様の最終レポート上に表示されます。



測定ルーチンに **RECALL/VIEWSET** コマンドの後に寸法またはカラーマップコマンドがある場合、各 **RECALL/VIEWSET** の新しいページにレポートにおけるビューセットを表示させることができます。このアプローチ (方法) では、レポートでのビュー (表示) が調整され、寸法に対する新しいページが表示されます。

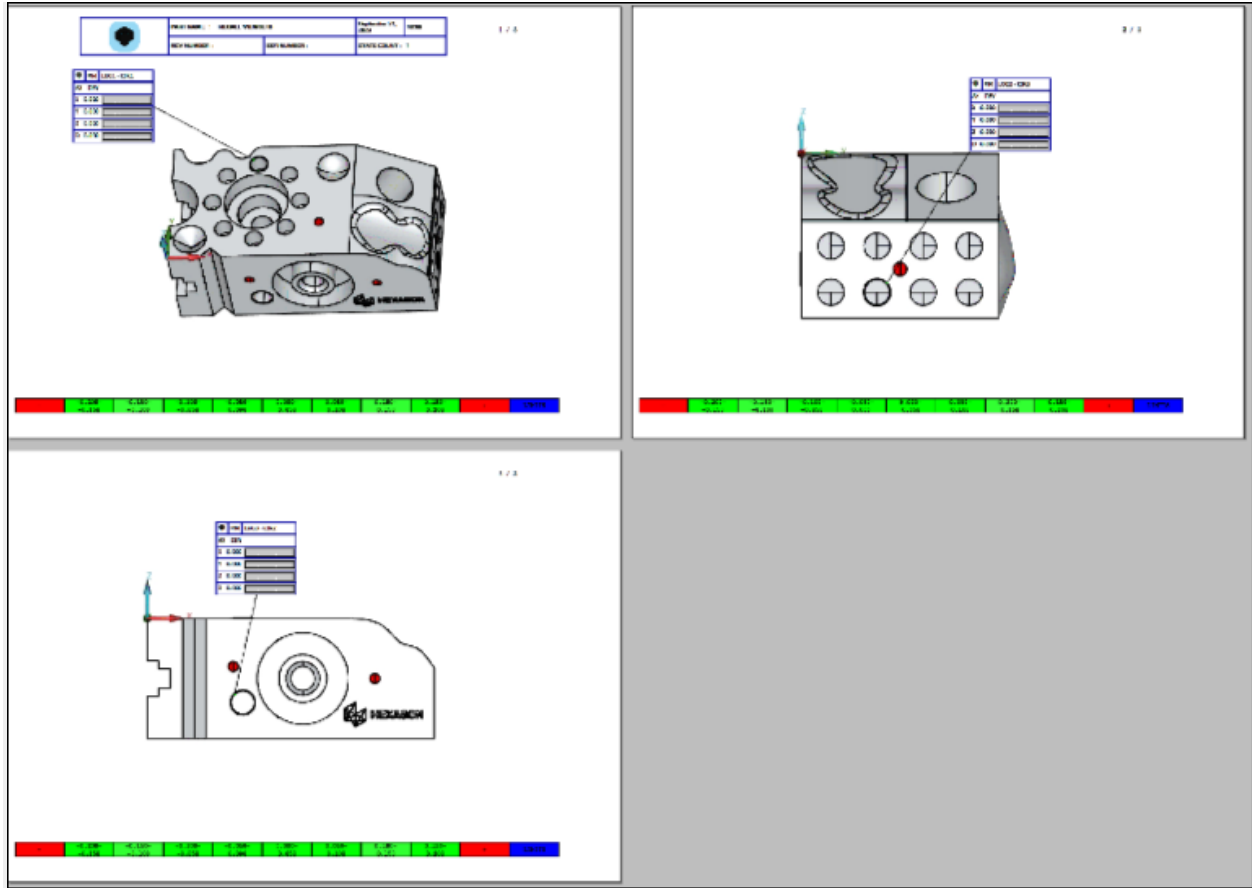


編集ウィンドウにおけるこの例は 3 つの **RECALL/VIEWSET** コマンドを示しており、各コマンドについてその後に寸法コマンドがきます。寸法コマンドによって、以下のように各ビューセットがレポート内のそれ自体のページに表示されます。

```

      RECALL/VIEWSET,VIEWSET1
DIM LOC1= LOCATION OF CIRCLE CIR1 UNITS=MM , $
GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH HALF ANGLE=NO
AX    NOMINAL    +TOL    -TOL    MEAS    DEV    OUTTOL
X      40.000    0.050    0.050    40.000    0.000    0.000 ---#----
Y      50.500    0.050    0.050    50.500    0.000    0.000 ---#----
Z        0.000    0.050    0.050     0.000    0.000    0.000 ---#----
D       8.200    0.050    0.050     8.200    0.000    0.000 ---#----
END OF DIMENSION LOC1
      RECALL/VIEWSET,VIEWSET2
DIM LOC2= LOCATION OF CIRCLE CIR3 UNITS=MM , $
GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH HALF ANGLE=NO
AX    NOMINAL    +TOL    -TOL    MEAS    DEV    OUTTOL
X     120.000    0.050    0.050   120.000    0.000    0.000 ---#----
Y      23.000    0.050    0.050    23.000    0.000    0.000 ---#----
Z     -42.000    0.050    0.050   -42.000    0.000    0.000 ---#----
D       8.000    0.050    0.050     8.000    0.000    0.000 ---#----
END OF DIMENSION LOC2
      RECALL/VIEWSET,VIEWSET3
DIM LOC3= LOCATION OF CIRCLE CIR2 UNITS=MM , $
GRAPH=OFF TEXT=OFF MULT=10.00 OUTPUT=BOTH HALF ANGLE=NO
AX    NOMINAL    +TOL    -TOL    MEAS    DEV    OUTTOL
X      40.000    0.050    0.050    40.000    0.000    0.000 ---#----
Y        0.000    0.050    0.050     0.000    0.000    0.000 ---#----
Z     -35.000    0.050    0.050   -35.000    0.000    0.000 ---#----
D      10.000    0.050    0.050    10.000    0.000    0.000 ---#----
END OF DIMENSION LOC3

```



ビューセットを更新するには:

ユーザは既存ビューセットを変更することもできます。編集ウィンドウから、**RECALL/VIEWSET, <NAME>** コマンドを選択して、そのビューの必要に応じて、グラフィックスを表示するウィンドウを変更し、次に、**挿入|レポートコマンド|ビューセットを保存**メニューオプション（または画像モードツールバーからビューセットを保存アイコン）を選択します。または、**グラフィックモードツールバー**から、ビューセット

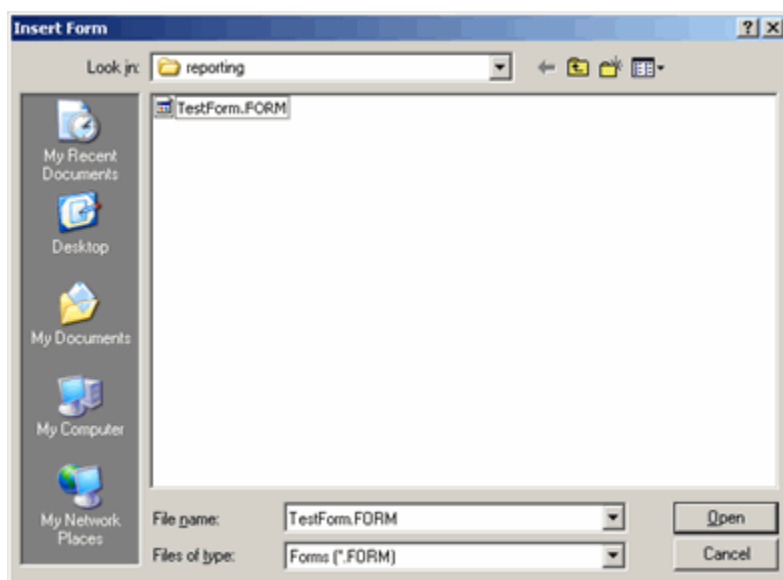
を保存アイコン（）を選択します。



新しいビューセットを作成せずに現在のビューセットを変更して保存したいだけの場合、代わりにビューセットを保存メニューオプションを選択します。

FORMコマンドの挿入

[挿入 | レポート コマンド | フォーム]メニュー項目を選ぶと、あらかじめ定義された .FORM ファイルを、測定ルーチン内に挿入することができます。このメニュー項目を選択すると、[フォームの挿入] ダイアログボックスが表示されます。



[フォーム挿入] ダイアログ ボックス

.FORM ファイルへ移動し、それを選択し、[開く]をクリックします。PC-DMIS は編集ウィンドウに以下に似た FORM/FILENAME コマンドを挿入します：

```
CS1=FORM/FILENAME=C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM
```

```
PARAM/=
```

```
ENDFORM/
```

FILENAME = これは.FORMファイルのロードする場所を定義します。

PARAM/ - これは情報をフォームに送信します。例えば、
`PARAM/Text1.Text=C1.INPUT` の PARAM ステートメントを使用すると、コメント `C1.INPUT` がコントロールに送信されます。

または、FORMを入力しTABを押して、測定ルーチンにFORM/FILENAMEコマンドを挿入してから、手動でパスを入力し希望のフォームを読み込みます。

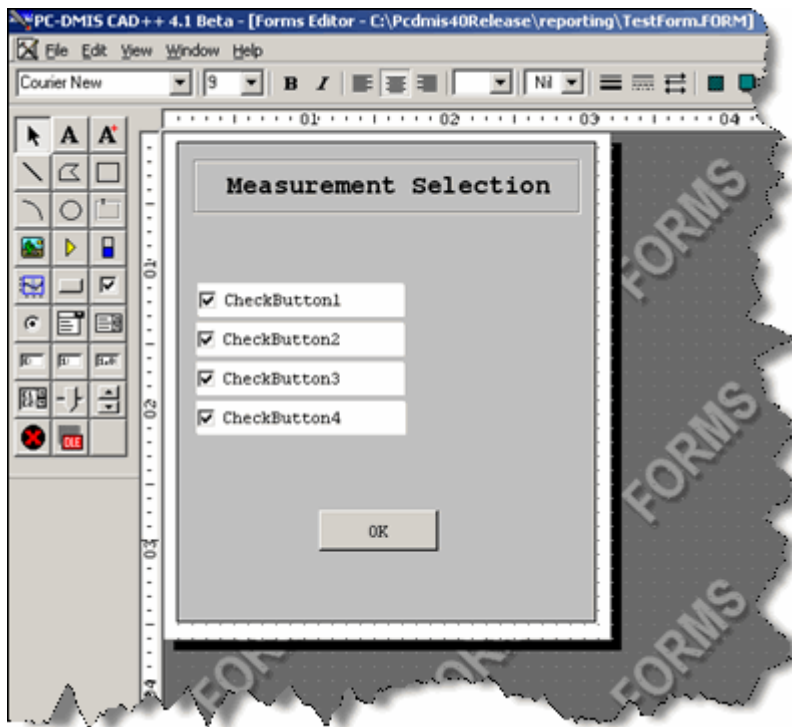
PC-DMISはこのコマンドを実行すると、定義されたフォームを起動し、フォームにおいて定義された任意パラメータをコントロールに渡します。

書式と測定ルーチン間のコミュニケーション

ASSIGNとPARAMステートメントの組み合わせを使用して、フォームから値を渡すことができます。これで、フォームの測定ルーチンとの間に便利な双方向通信を設定できます。

ASSIGN ステートメント - ASSIGNステートメントをフォームのコントロールの値を初期化することができます。これらのステートメントは、変数を作成でき、フォームを閉じた後に、フォームから更新された値を受け取ることができます。

たとえば、以下のように四つの名前のないチェックボックスがあるフォームを持つことを仮定します。



そこで、それらに名称と値を動的に与えるよう、測定ルーチンに指示します。編集ウィンドウでは、以下のようにASSIGN ステートメントを使用してチェックボックスを名前を付けて、初期化します：

FORMコマンドの挿入



```
ASSIGN/CHECK1VALUE=0  
  
ASSIGN/CHECK1TEXT="Point "  
  
ASSIGN/CHECK2VALUE=1  
  
ASSIGN/CHECK2TEXT="Line "  
  
ASSIGN/CHECK3VALUE=0  
  
ASSIGN/CHECK3TEXT="Circle "  
  
ASSIGN/CHECK4VALUE=1  
  
ASSIGN/CHECK4TEXT="Sphere "
```

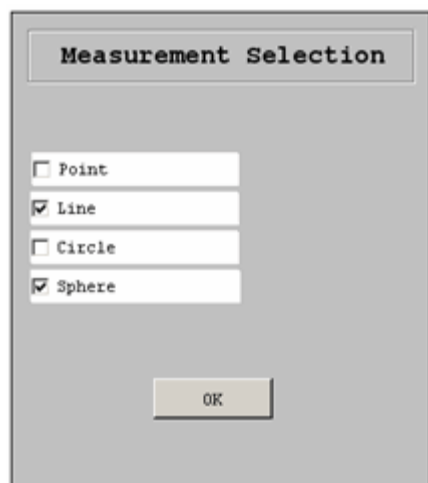
PARAM ステートメント - 今、あなたがいくつの変数を持ち、PARAMステートメントを使用して以下のように変数とフォーム自身の間の接続を確立できます：



```
CS1=FORM/FILENAME=  
C:\PCDMIS40RELEASE\REPORTING\TESTFORM.FORM  
  
PARAM/CHECKBUTTON1.VALUE=CHECK1VALUE  
  
PARAM/CHECKBUTTON1.TEXT=CHECK1TEXT  
  
PARAM/CHECKBUTTON2.VALUE=CHECK2VALUE  
  
PARAM/CHECKBUTTON2.TEXT=CHECK2TEXT  
  
PARAM/CHECKBUTTON3.VALUE=CHECK3VALUE  
  
PARAM/CHECKBUTTON3.TEXT=CHECK3TEXT  
  
PARAM/CHECKBUTTON4.VALUE=CHECK4VALUE  
  
PARAM/CHECKBUTTON4.TEXT=CHECK4TEXT  
  
PARAM/=   
  
ENDFORM/
```

書式が呼び出されると、CHECKBUTTON1にはチェックがなく、そのテキスト ラベルには「点」の表示があり、CHECKBUTTON2にはチェックがあり、そのテキスト ラベ

ルには「直線」の表示があり、CHECKBUTTON3にはチェックがなく、そのテキストラベルには「円」の表示があり、CHECKBUTTON4にはチェックがあり、そのテキストラベルには「球」の表示があり、以下のようになります。



フォームが読み込まれると、チェックボックスを別のものに選択または選択解除することができます。フォームを閉じると、チェックされた状態を最初に設定する変数 (CHECK1VALUE, CHECK2VALUE, CHECK3VALUEおよびCHECK4VALUE) がこの時点でチェックボックスの現在の値を保持します。

スクリーン キャプチャの挿入



このトピックでは画面キャプチャを追加するための古い方法について詳述します。それは下位互換性を維持する目的で残されています。新しいスナップショットメニューオプションを使用してみてください。より豊富な機能を備えています。詳しくは、この章の「スナップショットの挿入」を参照してください。

挿入 | レポートコマンド | 画面キャプチャメニュー項目を使用して、レポートにおけるパートの画面キャプチャを表示することができます。このメニューオプションは編集ウィンドウにDISPLAY/METAFILEコマンドを設定します。このコマンドがマークされて実行された場合に、PC-DMISは自動的に画面の取り込みをリフレッシュして、レポートにそれを表示します。

編集ウィンドウにおけるコマンド行を以下に示します。

スナップショットの挿入

DISPLAY/METAFILE, "____", TOG1, TOG2

____ = このフィールドには、キャプチャした画面の説明を入力できます。テキストは最大255字に制限されています。

TOG1 = このフィールドでは、スクリーン キャプチャーの品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: 25%、50%、75%、100%及びスクリーンに適合。

TOG2 = このフィールドでは、画面捕獲の品質が決定されます。以下のうちから、選択してトグル変更することができます: **高品質**、**良品質**及び **低品質**



これをレポートウィンドウに表示するには、レポートウィンドウ内のいくつかのテキストを右クリックし、**編集**を選択し、**レポート ダイアログ ボックス**が表示する場合、**画面キャプチャを表示** チェックボックスを選択します。

このコマンドは分析ウィンドウで作成した **ANALYSISVIEW** コマンドと **DISPLAY/METAFILE** コマンドと同じです。分析ウィンドウの詳細については、この章の「分析エリア」を参照してください。



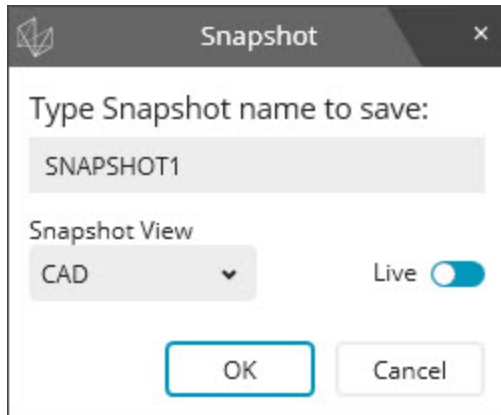
グラフィック表示ウィンドウ内のテキストの**True Type**フォントを使用すると画像キャプチャ時に最良の結果が得られます。

スナップショットの挿入

SNAPSHOTコマンドは、レポート内の被測品の画面キャプチャを表示します。

[スナップショット]ダイアログボックスにアクセスするには、**挿入 | レポートコマンド | スナップショットの順**に選択するか、または**図形モード**ツールバーから、[スナップシ

ョットの挿入]ボタン () をクリックします。



[スナップショット] ダイアログボックス

保存するスナップショット名をキー入力 - このボックスでは、スナップショット名を入力できます。

スナップショットビュー - この一覧では、スナップショットビューに**CAD**または**OVC**を選択できます。

ライブ - このボタンはライブ・モードのオンとオフを切り換えます。

- ライブモードがオンのとき、ソフトウェアは連続データストリームから測定値のスナップショットをキャプチャします。これはPC-DMISがグラフィック表示ウィンドウとプローブ測定値ウィンドウにプローブデータ「ライブ」(リアルタイム)を表示することを意味します。
- ライブモードがオフのとき、PC-DMISは1つのスナップショットとして測定値を取得します。PC-DMISはグラフィック表示ウィンドウとプローブ測定値ウィンドウを更新しません。

OK - このボタンは、編集ウィンドウにその名前の**SNAPSHOT**コマンドを挿入します。このコマンドがマークされて実行された場合に、PC-DMISは自動的に画面の取り込みをリフレッシュして、レポートにそれを表示します。

コマンドモードでの編集ウィンドウにおいて、手動で **SNAPSHOT** と入力して Tab キーを押すこともできます。Tabキーを押すと、PC-DMISはグラフィック表示ウィンドウの状態のプロパティをコマンドに保存します。実行中、PC-DMISは、ソフトウェアがコマンドを実行すると、キャプチャをレポートに挿入します。

編集ウィンドウのコマンドライン:

TOG1 =SNAPSHOT/

スナップショットの挿入

TOG1 = このフィールドにはスナップショットの名前が入ります。

DISPLAY/METAFILEコマンドとの相違点

SNAPSHOTコマンドは、[DISPLAY/METAFILE](#)コマンドよりも優れた画面キャプチャを提供します。スナップショット機能は[DISPLAY/METAFILE](#)と似ていますが、次の点が異なります。

- **SNAPSHOT**コマンドは、画面キャプチャのグラフィック表示ウィンドウに表示されるさまざまな分析関連項目を更新します。これらの分析項目には、グラフィカル分析、ポイントクラウドカラーマップ、寸法情報のラベル、偏差色付きスキャン矢印などが含まれます。[DISPLAY/METAFILE](#)を使用すると、より静的なイメージが得られます。
- **SNAPSHOT**コマンドは、画面の向きとズームレベルを保存します。
- **SNAPSHOT**コマンドは、複数のビューで機能します。

デフォルトのスナップショット名


スナップショット名を入力しないと、デフォルトの名前はこのパターン**SNAPSHOT1**、**SNAPSHOT2**、**SNAPSHOT3** ...のように続きます。

CADセットアップツールバーのリストからCADモデルビューを最初を選択し、スナップショットダイアログボックスにアクセスすると、デフォルトのパターンは現在のモデルビューの名前に従います。



部品の右側を表示する右の名前を持つCADモデルビューがあるとします。一覧から **[右]** を選択し、**[スナップショット]** ダイアログボックスにアクセスすると、PC-DMIS はスナップショットの名前を「Right1」として表示します。再度実行すると、PC-DMIS は次のスナップショットに「Right2」などの名前を付けます。

スナップショットコマンドの挿入

1. グラフィック表示ウィンドウで、パーツを移動、ズーム、回転させて、希望の方法でパーツを回転させます。
2. グラフィックモードツールバーから、スナップショットを挿入 () をクリックして、スナップショットダイアログボックスを表示します。

3. [スナップショット] ダイアログボックスで、画面キャプチャの名前を入力し、ビューを選択してライブモードを設定します。
4. [OK]をクリックして、編集ウィンドウの選択した場所にSNAPSHOTコマンドを挿入します。
5. PC-DMISが現在の位置に挿入できない場合、挿入をどのように処理するかを尋ねるメッセージボックスが表示されます。メッセージボックスで次の3つの項目のいずれかを選択できます：
 - 次の位置 - 次の有効な位置にコマンドを挿入します。
 - プログラムの終了 - 測定ルーチンの最後にコマンドを挿入します。
 - 挿入しない - これはコマンドを挿入しません。

グラフィック表示ウィンドウにおけるスナップショットの表示

1. 編集ウィンドウでSNAPSHOTコマンドを選択します。
2. Ctrl + Eを押してそのコマンドのみを実行します。これによってグラフィック表示ウィンドウにスナップショットが表示されます。

グラフィック表示ウィンドウからスナップショットコマンドを更新する

1. 編集ウィンドウから、更新するSNAPSHOTコマンドを選択します。
2. F9キーを押してスナップショットダイアログボックスを開きます。グラフィック表示ウィンドウは、スナップショットに保存されているビューをロードします。
3. グラフィック表示ウィンドウでは、更新されたスナップショットに合わせてパーツを移動、ズーム、回転することができます。
4. 必要に応じて、名称を変更します。
5. [OK]をクリックして、そのスナップショットを新しいグラフィック表示ウィンドウのプロパティで更新します。

レポートからスナップショットコマンドを更新する

1. ルーチンを実行し、表示 | レポートウィンドウを選択してレポートウィンドウにおけるレポートにアクセスします。
2. レポートウィンドウからスナップショット画像をダブルクリックして、それをCADReportObject (CRO)に変換します。

スナップショットの挿入

3. CROでパン、ズームおよび回転を行ってそれを修正します。CROでの操作について詳しくは、「測定結果のレポート」章の「CadReportObject (CADレポートオブジェクト)」を参照してください。
4. CROの外側をダブルクリックして、レポートへのCROの変更を確定します。PC-DMISは同じCROの変更を編集コマンドにおけるSNAPSHOTコマンドに適用します。そのコマンドが続いて実行される場合、更新されたSNAPSHOTコマンドが使用されます。

カスタムレポートにスナップショットを追加すること

1. レポートウィンドウで、カスタムレポートを編集するか、新しいカスタムレポートを作成します。カスタムレポートについては、PC-DMIS Core ドキュメントの「測定結果のレポート」章にある「カスタムレポートの作成」を参照してください。
2. 要約モードにおける編集ウィンドウで、レポートで必要とするスナップショットコマンドを選択します。
3. それをカスタムレポートにドラッグアンドドロップして、画面キャプチャを表示します。

参照されたコマンドの削除

グラフィック表示ウィンドウ（寸法情報ボックスなど）に可視要素を作成する編集ウィンドウ内のコマンドは、スナップショットコマンドによって参照されるコマンドと見なされます。スナップショットコマンドには、画面キャプチャを作成するための参照されるコマンドが必要です。スナップショットコマンドは、存在しないコマンドは参照できません。したがって、これらの参照コマンドを削除すると、PC-DMISは関連付けられたスナップショットコマンドも削除するかどうかを尋ねられます。